

# 日本農業経営大学校

Japan Institute of  
Agricultural Management

# 2018

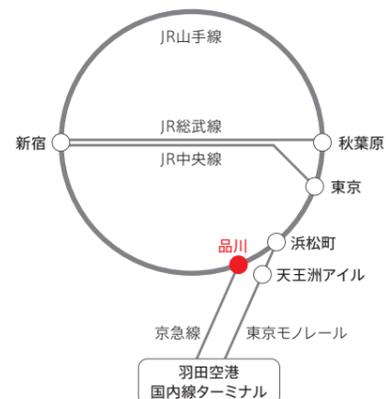
学校案内



## 日本農業経営大学校

(一般社団法人アグリフューチャージャパン)

〒108-0075 東京都港区港南2丁目10番13号 農林中央金庫品川研修センター5階  
TEL:03-5781-3751 admission@afj.or.jp



<http://jaiam.afj.or.jp/>

日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

# あなたの未来。農業の未来。 日本の未来がここにある。

農業に期待される役割は、ますます高まっています。

誰もが安心して食べることのできる、安全で美味しい食を守ること。地域経済、地域社会に活力を与えること。

今こそ、農業経営者が新しい価値を創造していく時代です。

日本農業経営大学校は、熱意と志を持ったあなたに一流の農業経営者、地域農業のリーダーへと育ててもらいたい。

そのために、様々な工夫をこらした教育を提供します。

あなたが一歩踏み出すことで、日本の農業は可能性を広げる。日本の未来は、あなたと共に育つのです。

目次	学校紹介	03	ゼミ活動・専任講師紹介	23
	各界からのメッセージ	05	農業実習・企業実習	25
	[学生インタビュー] 私たちの2年間	07	学校生活・寮生活	27
	2年間のスケジュール	11	施設の紹介	29
	[授業紹介] 経営力	13	卒業生・進路紹介	31
	[授業紹介] 農業力	15	各種支援について	33
	[授業紹介] 社会力	17	募集・受験について	35
	[授業紹介] 人間力	19	よくある質問	37
	特別講義	21		



## 農業経営者の育成にオールジャパン体制で取り組む。

一般社団法人アグリフューチャージャパン  
(日本農業経営大学校運営法人) 代表理事 浦野 光人

日本の農業は、農業従事者の高齢化と後継者不足、離農による耕作放棄地の増大などの様々な課題に直面しています。そのような中で、経営マインドを持った農業者育成の重要性が増しており、農業人材強化というテーマで重要な政策の一つとして取り上げられています。

私ども一般社団法人アグリフューチャージャパンは、次世代の農業を担う人材を育成するという当法人のミッションに賛同する多くの会員企業や団体の支援の下に設立され、平成25年4月に日本農業経営大学校を東京に開校いたしました。日本農業経営大学校では、「持続可能な経営を確立できる農業経営者」、「世界的な視野と地域での実践力を兼ね備えたリーダー」を目指す人材と位置づけ、農業界、産業界、学界がバックアップするオールジャパンの体制で農業経営者の育成に取り組んでいるところです。

日本農業経営大学校は、農業経営に必要な知識と実践力を習得するため、2年間で消費者や情報が集積する東京で学ぶことができる、国内唯一の教育機関です。平成29年3月には、第3期生が卒業し、これまでの卒業生は北海道から九州にいたる全国各地で就農し、在学中にまとめた「就農後の経営計画」の実現に向けて奮闘しています。

日本農業経営大学校で学ぶ2年間において、同じ志を持って全寮制で生活を共にした学生や卒業生間のつながり、各種実習やフィールドワークでお世話になる全国各地の先進農業者、約260の会員企業・団体との間で得られるネットワークは、間違いなく就農後の大きな財産となります。農業に熱い思いを持った若者が日本農業経営大学校で学び、成長し、本校卒業生がこれからの農業をリードしてくれることを期待しています。



## 社会の期待に応え 日本農業の明日を切り拓く人材を輩出する。

日本農業経営大学校 校長 堀口 健治

日本農業に求められるのは何よりも「人」です。本校は1学年20名の少数精鋭の授業を通じ、次世代を担う農業経営者で地域のリーダーとしても活躍する人材を育成します。

学界、農業界、産業界からの多彩な講師が皆さんを鍛えることにより、農業経営に必要なグローバルな視点や事業構想力、リーダーとして信頼を勝ち得る先進性と人間性、自然を相手に取り組む農業の奥深さを、学び取ることができます。農業はさまざまな可能性が広がる魅力的な産業です。あなたも本校で学び日本農業の新たな1ページを開く経営者になってください。

次世代の経営者は、持続的経営を確立するため、世界的視野で多様なネットワークを構築し、しかも地域に足を下ろし実践することが求められます。

東京に教室を置くメリットは、多くの情報が集まる地域で先端と深層の動きを察知しながら勉強できることです。多様な講師が多方面から集まってくれますので学びの対象が拡大します。物流や商流の変化を見極め、消費の新たな動きも体験できることは今後の発展に役立つことでしょう。

こうした動きや流れをつかむ方法を学び、先端的な販売戦略、次世代型の経営管理理論等を身に付けて戻れば、地域で自信を持って経営を展開できます。また付属農場を持たない本校の現場の学びは、先進農業経営体での4か月であり企業での3か月の実習にあります。

2年間、教室と寮と共に学ぶ仲間は生涯の同志になることでしょう。太い人脈を作って活躍の場に定着し、経営を展開させることを期待しています。

# 学校紹介

次世代の農業経営者と地域農業のリーダーを育む教育システムが、本校にはあります。



## 本校が目指す人材像

ますます広がる農業の可能性に対応しうる、多様な個性を育みます。  
農業経営者、そして地域農業のリーダーへの成長を目指し、様々な能力を養います。



- 在学中に、学生自らが経営の将来ビジョン及び到達目標を定め、さらに卒業後は、それぞれの現場で不断の実践を重ねることにより、目指す人材像の実現に努めます。
- 本校では、在学中のみならず卒業後も、継続的な学習の機会を提供することにより、目指す人材像への到達を支援します。

## 本校の特色

**[カリキュラム]**  
経営力を重視した科目編成

**[教育手法]**  
講義はディスカッション、ケーススタディなどを導入。少人数制のゼミを重視し、実習は農業・企業の経営の現場で実施

**[講師]**  
大学及び研究機関の研究者、経営者、実務者など、第一線で活躍する講師約150名を全国から招へい

**[学生]**  
多様な学生が全国から集まり、卒業後は全員が就農

**[校舎立地]**  
国内最大の情報と人材の集積地である東京に立地

**[全寮制]**  
全寮制生活を通じた人間力形成と全国的なネットワーク醸成

### [日本農業経営大学校 概要]

<b>開校</b>	2013年4月	<b>運営母体</b>	一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン
<b>校舎立地</b>	東京都港区 (JR品川駅徒歩12分)	<b>校長</b>	堀口 健治
<b>定員</b>	20名/学年	<b>教育期間</b>	2年(講義・演習+現地実習)
<b>全寮制</b>	学生寮最寄駅「R南武線、武蔵中原駅」(寮から校舎まで約50分)	<b>募集対象</b>	未来を切り拓く農業経営を志す者 ※詳細はP35をご覧ください。

## 本校は次世代の農業経営者に必要な4つの力を育みます。

### 基本方針

時代が大きく変化する中、未来を担う農業者には「経営力」「農業力」「社会力」およびそれらの根幹をなす「人間力」がますます求められてきます。本校は、これまでにない新たな教育理念やカリキュラムを定め、これら4つの力を涵養し、グローバル化時代を切り拓く農業経営者教育の実践を目指します。



### カリキュラムの編成方針

本質的な内容の確実な定着を図るとともに、時代の変化および学生のニーズに適切に対応したカリキュラムを編成する。

- ① カリキュラムは、講義、現地実習、ゼミ、総合的学習、卒業研究および特別講義等で構成する。
- ② 講義の領域は、「経営力」「農業力」「社会力」および「人間力」で構成し、各領域の下に学群を設け、各学群の下に科目を設ける。

1-講義・演習	農業界、産業界の経営者、実務家および研究者等を講師として招へいし、講義と演習を有機的に結合させた授業を実施する。講義では、幅広い考え方を示しつつ、多様な考え方や方法を学び、学生主体によるディスカッション等を通して、自ら進むべき道を見定めることができるようにする。演習は、ケースメソッド(事例研究)を中心として、自ら課題を発見し解決できる能力を育む。
2-現地実習 農業実習4ヵ月間・ 企業実習3ヵ月間	先進的農業経営や食品・流通企業等の現場での体験を通じ、各事業のコア・コンピタンス(強み)を理解し、自らの農業経営につなげる。
3-特別講義 週1~2日×2コマ程度	学生のニーズや時代の潮流を見定めつつ、様々な知見を有する講師による特別講義およびディスカッションを教育の一環として行い、その一部は、広く一般に公開する。
卒業研究	卒業後の事業計画の策定や、新たなビジネスモデルを構想する教育活動。
ゼミ・総合的学習	教科の枠を超え、課題解決能力の育成を目指す、創意工夫を生かした教育活動。
専任の指導教員を配置	学生自らが課題を発見し、解決できる資質や能力を育てる。自己の在り方、生き方を考えることができるよう支援する。
特別活動	体育的活動、文化的活動等の集団活動を通じ、幅広い経験を積みながら、自主的な態度を育てるとともに、自己の在り方・生き方を考える能力を養う。
全寮生活	2年間の集団生活を通じ、経営者に求められる、自主性・自律性を涵養するとともに、多様な価値観を学ぶ。
AFJ会員とのネットワーク	会員企業や農業経営者等による様々な学びの場を提供する。

# 各界からのメッセージ

オールジャパンの支援体  
各界のトップクラスの方

制で、日本農業経営大学校を応援。  
々からメッセージをいただきました。



## 金子 美登 さま

特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会理事長、  
一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン代表理事副理事長

人類史の中の大転換の時代。その舞台は美しい田園が織りなす農が間違いなく主役です。そこに、いのち巡る農業・農村という文化を土台に、「むら」と「まち」とが新たなコミュニティー、新たな共同体の復権を目指す時。そして、食・エネルギー・福祉までを自給・自立・循環する時。その自給の石を各自各地で積み直し、再生・再建する時。美しい農の世紀を担い、価値ある時を刻む、志高い若人よ、来たれ。

**プロフィール** 1971年 農林水産省農業者大学校卒業後、同年に就農。1999年 埼玉県小川町議会議員に初当選し、2006年 特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会理事長に就任。2012年 一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン代表理事副理事長に就任し、現在に至る。



## 茂木 友三郎 さま

キッコーマン株式会社 取締役名誉会長

日本農業経営大学校に入学される方には、是非夢と志を持っていただきたい。夢と志は、様々な場面で困難に直面した際に、これを乗り越える力をもたらしてくれます。また、リーダーになるためには、人生の中で、他のことを犠牲にしても懸命に勉強しなくてはならない時期があります。本校の学生の皆さんには自分の将来に必要な分野を自学自習することを含めて懸命に勉強し、日本の農業経営の分野をリードする存在になってほしい。

**プロフィール** 1935年生まれ千葉県出身。1958年慶應義塾大学法学部卒業後、キッコーマン株式会社入社。1961年米国コロンビア大学経営大学院(MBA)卒業。1995年キッコーマン株式会社 代表取締役社長CEOに就任。2004年同社代表取締役会長CEOを経て2011年同社取締役名誉会長 取締役会議長に就任し現在に至る。公益社団法人経済同友会終身幹事、公益財団法人日本生産性本部会長。

## 三森 かおり さま

有限会社 ぶどうばたけ 取締役

2013年に誕生し2014年に新校舎を設立した日本農業経営大学校。ますます素晴らしい環境の中、未来の農業を支える人を育てる場所として進化しました。激動の日本。世界情勢も激変する中、日本の農業者が学ぶべき『経営』に特化し高い可能性をもとめ精鋭の学生達が日本国中から集結し、学ぶ寮生活の2年間。環境によって人は変わる。本校はまさに時代と共に進化する大学校と期待します。失敗を恐れず果敢に挑戦してください。大きな可能性を秘めた日本の農業・農業界の期待の大学校。羽ばたけ世界に。



**プロフィール** 山梨県出身。実家も専業農家の長子長女。短大卒業後、保育士を4年務めて1989年結婚を機に就農。農林水産省 食料・農業・農村政策審議会委員、山梨県総合計画審議会委員を経て、日本農業法人協会理事(現職)、やまと涼々アグリネット会長(現職)。

## 和田 寿昭 さま

日本生活協同組合連合会 専務理事

日本農業経営大学校での学習は、農業技術の習得に加え、鋭い経営感覚や経営のビジョンを学ぶ機会となるでしょう。生協は、食を中心に消費者に安心・安全な商品の提供とそうした事業を通じて地域社会づくりを進めています。農業生産者と消費者がつながり、生産者や産地を“見える化”することで、より食への安心・信頼が高まります。消費者と協同・連携した農業経営者が増えていくことを期待しています。

**プロフィール** 1960年岐阜県生まれ。1984年新潟大学を卒業後、東京大学消費生活協同組合に入協。東大生協専務理事を経て、2003年12月より全国大学生生活協同組合連合会専務理事を8年間勤め、2011年9月日本生活協同組合連合会に異動し、2013年6月より現職(運営・組織分野を担当)



## 江戸 龍太郎 さま

エスピー食品株式会社 顧問

日本の農業技術は世界のトップクラスと認識しています。また、日本の食品加工・製造・配送技術もまた、同様に一流と自負しています。これらの技術を日本そして世界の為に役立てるには、「志の高い人材」が必要です。日本農業経営大学校は自律性のある志の高い農業経営者を育てる教育機関です。当校での学びを通じて、自然環境保全を心がけると共に、一人ひとりの個性を生かしたチームワーク創りで持続性ある地域社会作りをリードし、将来の日本の農業界を牽引する「若き農業経営者」として活躍いただくことを強く期待しています。

**プロフィール** 1952年香川県生まれ。1976年早稲田大学工学部卒業後、エスピー食品株式会社入社。2005年エスピー食品株式会社 代表取締役社長、2011年同社取締役会長を歴任し、2014年より現職。



## 河野 良雄 さま

農林中央金庫 代表理事理事長

農林中央金庫では、次世代を担う農業者の育成を本来業務の一つと捉えており、その中で、本校の教育活動を、メインスポンサーの立場から全面的にバックアップしています。本校では、他では得られない様々な体験ができ、幅広いネットワークを築くことができます。さらに、全寮制の共同生活で生涯の仲間も得られます。是非一歩を踏み出し、地域農業のリーダーを目指してください。私たちは、在学中のみならず就農後も見据え、皆さんの農業経営の成功に向けサポートしていきます。

**プロフィール** 1972年3月に京都大学農学部卒業後、同年4月に農林中央金庫に入庫。宮崎支店長や(株)農中信託銀行への出向等にて様々な業務に携わり、常務理事・専務理事・代表理事副理事長を経たうえで、2009年4月より現職。



日本農業経営大学校  
第3期生

# 私たちの2年間

授業や実習、ゼミ、仲間、寮生活など。2年間で振り返り、本音で語ってもらいました。



金田 和成  
1995年 栃木県生まれ



中村 優太  
1990年 福岡県生まれ



鳥海 みな子  
1993年 神奈川県生まれ



東 将平  
1995年 熊本県生まれ

## なぜこの学校に入学したのですか？

**鳥海:** 私は農業に興味がありましたが、実家が農家ではなかったため情報が得られなくて。セミナーなどに参加しましたが、そこで語られる農業は規模が大きすぎて私が目指すものとは違いました。その後いくつか学校見学へ行ったら、この学校は他校のように圃場での作業が中心ではなく、いろんな視点で農業を学べると知って志望しました。

**中村:** 私は美容師として働いていた頃に、食生活の乱れから体調を崩しました。実家に戻ったらすぐに回復したのですが、そのとき健康のありがたみを実感しました。そして健康に貢献する仕事をしたいと思うようになり、農業を営む父の薦めもあってこの学校に入学しました。

**金田:** 私は栃木県の農業大学校に通っていたとき、先生に薦められたのがきっかけです。経営重視の農業系学校はめずらしいことや、講師が素晴らしいことを聞いて、心惹かれました。

**東:** 私は農家に育ち、幼い頃から漠然と将来は就農すると思っていました。でも親に「強い覚悟と能力がなければウチには要らない」と言われ、学校でしっかり学ぼうと思ったんです。そして同時期に、この学校の立ち上げにかかわった方と出会い、話を伺ううちに興味がわいて入学を決意しました。高校卒業後はまず自宅で半年間修行し、その後半年間は農産物やお金の流れを学ぶために流通企業で研修。一人暮らしをして自立できたのも良かったです。

⇒ 入学前研修について…P.35、P.37

## どのような授業が印象に残っていますか？

**東:** 上原先生の話術がスゴいです。経営の話から突然、おいしい蕎麦屋の話に飛んだりするのに、最後は全部つながっていて。もはや職人芸ですね。

**中村:** ヨガが好きでした。今までヨガは外見が美しくなるイメージでしたが、実は精神面を重視しています。ここで体験しなければたぶん一生縁がなかったと思いますし、体を動かす良い機会になりました。

**金田:** 私は食品流通論が面白かったです。どんな質問をしても先生が即答してくれて尊敬しました。

⇒ 授業について…P.13

## 特別講義についてはどうですか？

**東:** ライフネット生命保険の出口会長です。有名企業のトップのお話を聞ける機会は貴重ですし、若者の意見にきちんと耳を傾けてくださる人柄に感銘を受けました。

**鳥海:** 私は陸上をやっていたので、為末さんにお会いできたのがうれしかったです。「いくら自分が良いと思うものを作っても、相手の需要がなければダメ」という言葉は深く胸に刺さりました。

**中村:** 寺坂農園の寺坂社長の講義が面白かったです。農業実習のときは、直売は労力がかかるし大変だと思いましたが、寺坂さんのお話を聞いて直売も面白そうだなと。SNSをうまく活用されているところも勉強になります。

**金田:** アグリビジネス投資育成株式会社の伊沢さんです。投資というスタイルはめずらしいですし、農業の現場で経営者としてしっかり向き合っている感じが伝わってきて、印象に残りました。

⇒ 特別講義について…P.21

## 農業実習はどうでしたか？

**東:** 実習先は自分で探すのですが、私は交渉がう

まくいかず、教務部の方に紹介していただいた北海道の農園へ行きました。そこは生産目目が自家と似ていたのと、北海道の大規模経営を一度見てみたいという思いから選びましたが、輪作体系や土づくりなど生産について深く学べてとても満足しています。

**鳥海:** 私はずっとやりたかった「種採り」を実践している千葉の農園で、4か月間住み込みでお世話になりました。そこでは体験すべてが新鮮でしたが、炎天下の草とりは大変でしたね。また、将来は自分で配達をしようと思っていましたが、実際にやってみて厳しさを実感したので、宅配業者を利用する計画に変更しました。

**中村:** 私は実家と同じ有機農業をしている所に行きたくて、インターネットで見つけた岡山の農場へ。同期の間で人気の「BLOF理論」を学ぶことができ、4か月間アパートを借りてくださったのでプライベートも満喫できました。ただ、農作業に集中しすぎて経営の話あまり聞けなかったのは唯一の心残りです。

**金田:** 栃木にある2つの有機栽培農園へ行きました。1つは個人経営、もう1つは法人経営だったので、違いもよくわかりました。有機農業の基礎知識や、消費者目線の農業とはどういうものかを学べたのも大きな成果です。

⇒ 農業実習について…P.25

## 企業実習では何をられましたか？

**中村:** 環境や社会に配慮したエシカル(倫理的)消費の啓蒙活動を行う協会へ行きました。ゼミの先生からエシカルのお話を聞き、興味がわいたのがきっかけです。実習先ではフェアトレードの勉強会で運営のお手伝いをしたり、オーガニックレストランでの交流イベントに参加したり。自家の有機野菜栽培にも生かせる知識がいろいろ身に付きました。

**鳥海:** 私は徳島県で「葉っぱビジネス」を行う企業へ行きました。選んだ理由は、小規模なのに大き





な利益を出せる、その仕組みを知りたいと思ったから。実際に仕事を見て、製品の美しさや質をとことん追求する姿勢が売上に結びついているのだと実感しました。

**東:**私の実習先は、農業コンサル業界の最大手企業でした。実習中はロジカルシンキングを徹底的に学び、自分がどんな農業をやりたいか、じっくりと考えることができました。導き出した答えは、「面白い農業」。実習先や学校で出会った面白い経営者たちに負けない農業を模索していこうと思います。

**金田:**栃木県の生活協同組合へ行き、生産者との打ち合わせや配送、イベント運営、カタログ作成、商品評価など幅広く体験しました。生協はもちろん、生産者や加工業者の方々とのつながりも大切にしていこうと思います。

⇒ 企業実習について…P.25

ゼミではどんな学びがありましたか？

**中村:**私は今まで、自然があれば人はそこに集まると誤解していましたが、ゼミでのグリーン・ツーリズム体験を通して、きちんとターゲットを絞り、ヒットさせるためのプランを練らなくてはならないと気づきました。農業も同じで、ただ良いものを作れば売れるわけではありません。戦略をもって取り組むことが大切だと思いました。

**鳥海:**私はフィールドワークを通して、農業は生産だけでなく、教育や、人を幸せにする役割もあることを学びました。

**東:**私は主婦の方々におこなった食生活に関するインタビューが印象に残っています。本を読むだけではわからない、多様な意見や意外な実態を知ることができて貴重な経験でした。

⇒ ゼミ活動について…P.23

寮生活はどうでしたか？

**金田:**栃木県の農業大学時代も寮でしたが、個室は今回初めてで快適でした。

**東:**私も高校が寮生活でしたが、違うのは食事の時間が決まっていること。朝晩ともに規則正しい食生活ができたのは良かったです。そして飲みたいときはすぐに集まってお酒を飲むのも、寮の

楽しみのひとつだと思います。

**中村:**それぞれの実家から届いた食材を使って、一緒にごはんを作るのも楽しかったですね。

⇒ 寮生活について…P.27

生活費はどうしましたか？

**金田:**入学前の貯金とアルバイト代でやりくりしました。

**中村:**美容師時代の貯金と、青年就農給付金を利用してなんとか生活できました。毎月の生活費は5万円程度。お昼はほぼ外食でした。

**鳥海:**アルバイト代と仕送りです。お昼は学校近くの、おばちゃん一人で切り盛りするお店で500円のランチが定番でした。

**東:**私は仕送りと青年就農給付金を使いました。

**中村:**青年就農給付金はやっぱりありがたいです



ね。それが後押しになって入学した人も多いと思います。

⇒ 青年就農給付金について…P.35

卒業後の進路を教えてください。

**東:**父が経営する農業法人で、穀物の生産販売を中心に行います。まずは作業を洗い出してマニュアル化し、生産を安定させることを目指します。自家も変革期なので、いろいろと面白いことができそうで楽しみです。

**金田:**ゆくゆくは独立を考えていますが、まずは地元・栃木県の農業法人に就職します。就職活動は地元まで往復6時間かかり大変でしたが、農業フェアに参加したり、地元で青年就農をサポートしてくれる人に相談した結果、採用に至りました。そこで5年ほど経験を積み、自家農地30aと知人から借りる予定の農地30aで、農業経営を始めたいと思っています。

**中村:**私は自家のニンジンを使った新事業を計画中です。卒業生の一人がうちのニンジンでコールドプレスジュースを作るのですが、それを美容院で販売したらどうか。インナービューティの提案として、これから営業していこうと思います。

**鳥海:**私は千葉県で就農します。就農先は、ホームページの写真が素敵で応募したところ、面接当日

に採用をいただけて。自家採種と宅配販売、そして子ども向けの食育イベントもやっていく予定です。

⇒ 卒業生・進路紹介について…P.31

良い出会いはありましたか？

**東:**経営や農業について相談できたり、一緒に事業展開できる仲間との出会いは宝物です。

**中村:**年齢も地域も超えて日本中に知り合いができるのは、この学校の特長だと思います。

**金田:**すぐに何かするのは無理でも、つながりを大切に維持していきたいですね。

**鳥海:**農業実習の実習先も、入学前に研修に行った農家の方が知り合いだったので紹介してもらえたり、いろんな所でつながっているんだと実感しました。

2年間でどう成長できましたか？

**金田:**いろんな人の考えや事例を聞いて、農業の可能性を感じました。もし前の学校を卒業してすぐに就農していたら、この面積でどう経費削減して…などと考えていたと思いますが、この学校に入って「こんなこともできる」「あんなこともやりたい」と思えるようになったのはうれしい変化ですね。

**鳥海:**私は視点が変わったと思います。お店に



入っても、従業員は何か、どんな売り方をしているかに自然と意識が向くようになりました。

どんな農業経営をしたいですか？

**東:**私は面白い農業経営者になり、日本を代表して世界と戦える農業をするのが夢です。

**鳥海:**私はコツコツとがんばり続ける農業経営者でいたいです。

**金田:**私も自分が納得できる農業をずっと続けていきたいです。

**中村:**私は有名になりたいです。それは目立ちたいという意味ではなく、世間に認知されることが、お世話になった先生やこの学校への恩返しになると思うから。

—— みなさん、どうもありがとうございました。



入学者の属性(1~4期)

年齢や経験等、様々なバックグラウンドを持つ学生が、全国から集っています。



出身地域



入学時の年齢



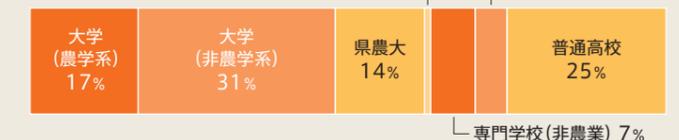
男女比



農家・非農家



最終学歴



社会人経験の有無



# 2年間のスケジュール

農業と向き合い、農業経営の本質を見極める。学びを実践に活かす仕組みがあります。



事前農業研修

未来を切り拓く農業経営を実践する

※原則3か月以上の農業従事、農業研修経験が必要です。

※これまでの実績による。

# 授業紹介 経営力

経営者に求められる本質的な知識や技法を学び、経営者としての判断、決断ができる資質、能力、態度を育む。〔経営力:22単位〕



経営者に求められる考え方や知識を学び、意思決定ができる資質、能力を身に付けます。

経営戦略、マーケティングから、農業簿記・会計に至るまで、多岐にわたる講義が展開されます。

さらに、ケース・スタディやディスカッションの機会も取り入れられ、実践的な内容となっています。

学群	科目	主な講師陣	概要
経営力入門	マーケティング入門 【1年次前期】	松尾 和典(日本農業経営大学校専任講師) 折笠 俊輔((公財)流通経済研究所主任研究員)	マーケティングの定義や考え方を中心に、基本的な知識を確認する。様々なケースを中心にマーケティングの成功要因を自ら考えることに重点を置く。また、マーケティングに携わっている実務家を招聘し、実践的な話を聴く機会を設ける。
	農業簿記 【1年次前期・後期】	野島 一彦 (学校法人大原学園簿記講座教務部部長代理) 西山 由美子 (税理士、にしやまゆみこ税理士事務所所長)	農業簿記検定の教科書・問題集を使用して、簿記の基本から、農業特有の取扱いを踏まえた日常的な記帳、決算時の会計処理、財務諸表の作成までを演習を多く取り入れながら学習し、1年次前期において農業簿記検定3級試験の合格を目指す。また、税務上の取扱いのうち、農業特有の内容を学習する。
経営戦略	農業・食の経営戦略 【1年次前期・後期】	上原 征彦 (昭和女子大学現代ビジネス研究所特命教授)	農業経営における競争優位を見出し、戦略を立案し、意思決定をするための力、それを実行に結びつける力を身に付けることを目的とする。ケースメソッドを活用するとともに、優れた農業経営者の成功要因を調べ、これをもとにディスカッションを展開しつつ、より現実的な問題にアプローチしていく。
	農業経営学 【1年次前期】	南石 晃明 (九州大学大学院農学研究院教授) ほか	学際的・国際的な視野に立って農業経営発展に資する経営管理の理論と方法について学ぶ。農業は地域に根差した産業であるが、次世代の農業経営には、他産業や海外農業の動向・発展方向についても理解をし、地球的・長期的な視点から経営戦略の策定とその効果的な実行を行うことが求められる。そこで、多様な農業経営の発展過程とその経営管理について、理論および方法の両面から理解すると共に、実践的な農業経営管理手法を身に付ける。
	情報戦略の理論と実践 【1年次後期】	松尾 和典 (日本農業経営大学校専任講師)	経営・マーケティング活動における情報戦略を幅広く学習し、イノベーションの実現、顧客との新たなリレーションの構築、農産物の販売手法の拡充等、情報をいかに戦略的に活用していくかを実践的に学習することを目的とする。ケーススタディや実践者からの講演等を取り入れた授業を行う。
	農業・食の経営組織 【2年次後期】	納口 るり子 (筑波大学生命環境系教授) ほか	農業経営を人的組織として把握する必要性、従業員を採用・研修や経営内の経営情報の集積、後継者の育成方法などについて論じる。大規模雇用型家族経営や雇用型農業法人を想定しているため、中小企業で採用されている人的資源管理の視点や、ネットワーク型の経営組織についても考察する。講義は農業法人の経営者を含む実務者による講演も想定している。
流通・マーケティング	消費者の心理と行動 【1年次前期】	神谷 涉 (玉川大学経営学部国際経営学科准教授)	消費者が買物や、所有、商品の使用といった消費活動を行う際に、どのような要因が存在するのか、それらはどのように影響し合うのか、それらによってどのような結果が生じるかを学ぶ。手法を講義後、簡単な実習を通じて基礎の習得を目指す。
	食農連携マーケティング 【1年次後期】	三村 優美子 (青山学院大学経営学部教授) ほか	地域社会・農業の価値を活かすマーケティングを食農連携マーケティングとした上で、その基本的な考え方から、実践に至るまで、事例研究、実務家による講演や討議を通じて学ぶ。最後に食農連携マーケティングをどう進めるかグループによる企画提案を行う。
	食品流通論 【1年次後期】	大塚 明(前日本スーパーマーケット協会専務理事) 高橋 佳生((公財)流通経済研究所常務理事)	流通の基本的な概念・機能を学び、さらに消費財全般の流通チャンネルの変革や、国際化、法規制といった最新のトレンドにも触れていく。また、農業・食品産業にかかわる流通についての講義も実施することで、農業経営者として実務で活用できる知識の習得を目指すものとする。

## 経営戦略 | 農業・食の経営戦略



農業経営の問題点と解決方法を、様々な角度から考えます。

〈担当講師〉  
上原 征彦  
昭和女子大学現代ビジネス研究所特命教授

これからの農業には戦略的な思考と経営者としての判断力や決断力が必要です。本講義では、農業経営における競争優位を見出し、事業を維持・拡大していくための戦略立案とそれを実行に結びつける力を身に付けることを目指しています。農業経営が抱える現実の問題点とその解決方法について、様々な角度から受講者とディスカッションを深めつつ、本講義を通じて多様なアイデアの創出にチャレンジしていきましょう。

「経営」について、幅広く興味深く学べます。

〈第4期生〉山口 雅暁 岩手県出身

上原先生は、農業はもちろん農業以外の分野についても、様々な事例を紹介してください。セコムの経営多角化のお話を聞き、これからは農業も他の産業とコラボレーションしていかなければと感じました。また、将来「花き」をやりたいとお話ししたところ、相談できる方を紹介してくださいだったり、他の授業の内容がこの授業で聞いたお話とつながることも多く、経営を学ぶ基礎となる授業だと思えます。

学群	科目	主な講師陣	概要
会計・マネジメント	農業経営の会計・ファイナンス 【1年次後期・2年次前期】	森 剛一 (税理士、アグリビジネス・ソリューションズ(株) 代表取締役)	農業経営を数字によって把握することで、利害関係者に的確に説明できる能力を磨く。また、農業経営を発展させるための経営計画を策定するスキル、的確な投資判断や資金調達をするための手法を身に付けることを目的とする。講義は演習方式により、経営の課題について受講生どうしの討議を行うことで、財務諸表の見方や経営分析の手法を学ぶ。
	コーポレート・ファイナンス 【2年次後期】	竹林 陽一 (株)クリエイティブ・ジャングル 代表取締役社長)	本講義では、ファイナンス理論に始まり、経営者として実務上の意思決定を行う力を身に付けていくことを目的とする。意思決定とは、起業する際の投資判断と、そこに必要となる事業資金の調達や生まれる利益の運用に係る判断を指す。まず基礎的な概念や構造を理解した上で、足許の金融事情も取り入れながら、企業価値算定や資金調達の考え方と実務についても学ぶ。
	農業におけるリスク管理 【2年次前期】	池戸 重信 (宮城大学名誉教授、 (一社)日本農林規格協会会長)	農業は自然を相手に生きものを生産する産業であるから、2次、3次産業以上に多様なハザード(危害)が存在し、リスクにさらされる。農業においても今後、経営規模が大きくなり、6次産業化によって事業内容も複雑化するにつれ、リスク管理が経営の命運を左右する可能性が拡大する。この授業では主要なリスクとそれへの対処方法を習得する。
	農業経営の社会的責任 【2年次後期】	(調整中)	本講義では、経営を実践していくなかで求められることになる社会的責任がより戦略的になり、同時に長期的な取り組みとして、経営における大きな課題となってきたことを確認し、今後の戦略として、どのような選択が考えられるか、を目的としている。
	経営者の法律 【2年次後期】	須藤 英章 (弁護士、東京富士法律事務所代表) 足立 学 (弁護士、東京富士法律事務所) 須賀 一也 (公認会計士、須賀公認会計士事務所代表)	事業の展開や組織の運営を行う際に直面する、経営者として最低限身に付けておくべき法律知識の習得を目的とする。授業では、民法を中心に各種契約の概念につき、法律の条文や判例等を織り交ぜながら、実際の農業経営での活用を前提に学ぶ。さらに、税法の基礎について学習する。
事業創造・イノベーション	ナレッジマネジメント 【1年次後期】	梅本 勝博 (北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 名誉教授)	組織経営における知のマネジメントの理論的枠組みと実践方法について理解する。経営を「知の創造・共有・活用」のプロセスとして捉え、その理論的モデルと実践戦略・手法、情報技術の活用、場の役割などを論じながら、事業創造のためのビジネスモデルという知識を創造するための方法論、農業のサービス化と顧客との価値の共創の重要性を学ぶ。
	イノベーション実践論 【2年次前期】	丹羽 清(東京大学名誉教授)	受講生がイノベーションを実際に起こすにはどうすればよいのかという実践的課題を扱う。まず、イノベーションの基本的考え方を理解して、それらを実践する際の応用上の課題を議論する。ついで、複数の人間からなる組織の中でイノベーションを実際に起こそうとする際の困難さを明らかにして、それらの解決の方法を議論する。
	アントレプレナー論 【2年次後期】	(調整中)	アントレプレナーの考え方・取り組み方について学ぶ。特に創業者としての経営理念、経営指針、経営戦略の組み立てや、意思決定、人材採用・育成について、経営の実践者を通じて論じていく。また、ゲスト講師と学生、学生間でのディスカッション時間を積極的に設け、学びを深める。
農業経営改革実践論 【2年次前期・後期】	近藤 修司 (北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科 客員教授)	主体的に未来を創り出すという視点から経営改革事例と理論・手法を習得し、自分の改革実践提案書を構築する。経営改革実践者や経営分野、企業戦略分野などのコンサルタントが持っている「診断・課題設定・問題設定・企画構想・組織化人材育成・成果実現」の体系と経営改革実践力を習得する。	

## 会計・マネジメント | 農業経営の会計・ファイナンス



自らの農業経営を数字で把握し、発展させる力を養います。

〈担当講師〉  
森 剛一  
税理士、アグリビジネス・ソリューションズ(株) 代表取締役

自らの農業経営を客観的に数字によって把握できるようにするとともに、金融機関などの利害関係者に的確に説明できる能力を磨きます。また、農業経営を発展させるための経営計画を策定するスキル、的確な投資判断や資金調達をするための手法を身に付けることを目的とします。

経営者に必要なファイナンスの基礎知識が身に付きます。

〈第2期生〉網島 慶人 三重県出身

1年次に学んだ農業簿記の知識を活用し、より実践的な学習を行います。実際の決算書から見える経営上の問題とその解決策を、学生同士で議論して摸索。キャッシュフロー計画などのファイナンス知識、今後増えるであろう農業法人のM&Aや大規模農業に必要な管理会計の基礎力を身に付けることができました。また、家族経営、農業法人、農事組合の決算書を見比べて、独立就農時や実家の経営を受け継いだ場合にどの経営形態をとるのがベストなのかも考えました。

# 授業紹介 農業力

農業者に求められる本質的な知識を身に付けた上で、地域農業を牽引し、持続・発展させうる農業の実践力に関わる資質、能力、態度を育む。〔農業力:10.5単位〕



農業者に求められる本質的な知識を身に付け、農業の実践力に関わる資質、能力、態度を養います。

講義では農業生産の基礎として作物、野菜、果樹、花き、畜産といった作物ごとに知識を身に付けるとともに

資源、環境、エネルギー、生物多様性等の問題を取り上げ、環境と調和した持続的な農業生産のあり方について学びます。

また、日本と世界の食料・農業の政策、および政策の枠組みを形成している法律を学び、農業経営者に必要な知識とビジョンを養います。

学群	科目	主な講師陣	概要
農業力入門	日本農業論 【1年次前期】	小口 広太 (日本農業経営大学専任講師)	農業の役割は、健康な食べものを生産し、人間の生命を支えることである。その成立条件は、「自然」と「地域(=消費者)」との共生にある。農業経営には自然と暮らしを有機的につなぎ、生命の再生産と持続可能な社会の礎を構築していくことが必要となるという問題意識のもと、日本農業の特質を紐解き、普遍的な農業の価値について考える。
	生物と農業生産Ⅰ 【1年次前期】	平澤 正(東京農工大学名誉教授) 北条 雅章 (千葉大学環境健康フィールド科学センター特任研究員)	農業は、生物の営みを利用して人間に有用な生産物を得る生命産業である。農業経営者は、工業生産とは異なる農業生産の特質を正しく理解し、植物や動物を科学の視点で観察する目が求められる。このため、植物・動物を健全に栽培・飼育し、生産能力を高めるために必要となる基本的・本質的な知識を身に付ける。
生物と農業	生物と農業生産Ⅱ 【1年次後期】	小林 信一(日本大学生物資源科学部教授) 澤登 早苗(恵泉女子大学人間社会学部教授) 渡辺 均 (千葉大学環境健康フィールド科学センター准教授)	生物と農業生産Ⅰでは、作物及び野菜について学び、生物と農業生産Ⅱでは、畜産、果樹及び花きについて学ぶ。
	資源・環境と農業生産Ⅰ 【1年次後期】	陽 捷行 (公財)農業・環境・健康研究所農業大学校長 荘林 幹太郎 (学習院女子大学国際文化交流学部教授) 石郷岡 康史(農研機構農業環境変動研究センター主任研究員) 根本 久(保全生物防除研究事務所代表) 宇根 豊(農と自然の研究所代表)	地球の水・大気・土壌等の環境資源には限りがある。農業生産を持続的に遂行するためには、農業が持つ物質循環機能を活かし、環境と調和した農業生産を持続的に行わなければならない。このため、環境資源、エネルギー等の問題を理解して農業経営を営む必要性を学ぶ。 資源・環境と農業生産Ⅰでは、農業と資源・環境との関係、大気環境、植物防疫、生物多様性等について学び、資源・環境と農業生産Ⅱでは、土壌環境、堆肥と土づくり、農業と資源・エネルギーについて学ぶとともに、有機農業の実践者等から様々な取り組みの実践例を学ぶ。
資源・環境と農業	資源・環境と農業生産Ⅱ 【2年次前期・後期】	陽 捷行((公財)農業・環境・健康研究所農業大学校長) 小川 吉雄(鯉湖学園農業米養専門学校教授) 橋本 力男(堆肥・育土研究所代表) 業師堂 謙一 (農研機構元バイオマス研究統括コーディネータ) 小林 久(茨城大学農学部教授) 菅野 芳秀(農業者、レインボープラン推進協議会相談役) 折戸 えとな(明海大学・早稲田大学非常勤講師) 相原 成行(有機農業実践者、相原農場代表) 萩原 紀行(有機農業実践者、のらくら農場代表) 金子 美登 (NPO法人全国有機農業推進協議会理事長、霜里農場代表)	

## 資源・環境と農業 | 資源・環境と農業生産Ⅰ



農業と自然との関係を、新たな視点で考えます。

〈担当講師〉  
宇根 豊  
農と自然の研究所代表

「農業は自然破壊か、そうでないか」の問いは難問です。「自然」という外来語(翻訳語)を使うと、外からのまなざしに引きずられます。農という人為は自然ではなくなります。しかし、「自然」という言葉を知らなかった先祖たちは、天地(自然)を内からのまなざしでとらえ、天地の一員として生きてきました。こういう感覚では、農は天地自然の一部です。しかし、現代農業の本質をつかむためには、この両方のまなざしが必要になります。その方法を身につけましょう。

## 自分が農業を選択したことに自信が持てました。



〈第3期生〉加藤 瞳 新潟県出身

「畑仕事の中にはお金にならない副産物がたくさん含まれており、景観や様々な生物が育まれる場として大きな役割を果たしている」ということを講義の中で学びました。私は農業を通して環境保護をしたいと考えていたので、営農が直接環境保護に繋がるということを知り、農業を選択したことに自信が持てました。人に勧める時にも説得力をもって説明できるようになったと感じています。

学群	科目	主な講師陣	概要
食料・農業の政策と法律	日本の食料・農業政策 【1年次前期・後期】	生源寺 眞一 (福島大学農学系教育研究組織設置準備室教授) 安藤 光義 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 江川 章 (中央大学経済学部准教授) 室屋 有宏 (桃山学院大学経営学部教授) 内田 多喜生 (株)農林中金総合研究所調査第一部主任研究員) 長谷川 晃生 (株)農林中金総合研究所食農リサーチ室主任研究員) 小針 美和 (株)農林中金総合研究所調査第一部主任研究員)	初回の講義で日本の食料・農業・農村政策の概要を把握し、続いて量と質の両面から国民の食の安全を確保する政策について論じる。そのうえで農業経営の育成に関わる担い手政策や農地制度の推移と現状、農業経営の成長を支える重要な要素である金融政策や技術政策を学ぶ。さらに地域とともに生きる農業経営という問題意識に立って、農村政策を学習する。
	世界の食料・農業政策 【2年次前期】	生源寺 眞一 (福島大学農学系教育研究組織設置準備室教授) 三石 誠司(宮城大学食産業学部教授) 阮 蔚(ルアン・ウェイ) (株)農林中金総合研究所基礎研究部主任研究員) 首藤 久人(筑波大学生命環境系准教授) 平澤 明彦 (株)農林中金総合研究所基礎研究部主任研究員) 関根 久子 (農研機構中央農業研究センター農業経営研究領域上級研究員) 石井 圭一(東北大学大学院農学研究科准教授) 和泉 真理((一社)JC総研客員研究員)	最初の2回の講義で、先進国と途上国の政策と世界の食料貿易の構図を俯瞰する。そのうえで国別・地域別に具体的な政策について学ぶ。先進国については、アメリカとEUの動向を学ぶとともに、イギリス・フランス・ドイツの政策の特色を理解する。さらに、著しい成長を遂げつつあり、日本の農産物の販路としても重要性を増しているアジア(中国など)について、近年の食料・農業政策の動向を把握する。
	食料・農業の法律と制度 【2年次後期】	高木 賢 (弁護士、公立大学法人大崎経済大学理事長、元食糧庁長官) 出田 安利 (農林水産政策研究所次長) 松原 明紀 (水産庁漁政部漁政課長) 武田 泰明 (特定非営利活動法人アジアGAP総合研究所専務理事)	食料・農業に関する各分野の政策の枠組みを形成している食料・農業関係諸法律について、食料・農業に関する実態認識及びあるべき方向との関連の下に体系的に習得するとともに、食料・農業の法律に隣接する法領域についても学ぶ。

## 食料・農業の政策と法律 | 日本の食料・農業政策

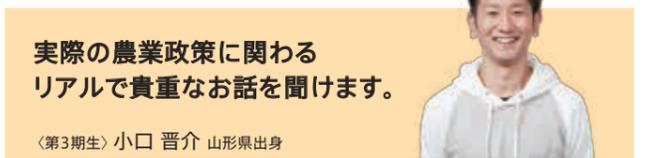


政策の背景事情や社会的な意義まで理解します。

〈担当講師〉  
生源寺 眞一  
福島大学農学系教育研究組織設置準備室教授

政策との関わり抜きに農業経営を構想することはできません。農産物の価格変動緩和策のように収益に直結する政策もあれば、農地集積や設備投資の面で経営の成長を後押しする政策もあります。食品安全や環境保全の制度を知ることも大切です。表面的な知識だけでは足りません。政策の背景事情や社会的な意義を理解するときには批判的に政策を考えてみる。このような広角的なねらいのもとで、政策の現場に精通している講師陣がそろいました。

## 実際の農業政策に関わるリアルで貴重なお話を聞けます。



〈第3期生〉小口 晋介 山形県出身

今まで農業政策に実際に関わってきた生源寺先生からお話を聞けることに驚きました。先生だからこそできるエピソードも交えながら話してくださったので、最後まで興味深くお話を聞かせていただきました。私は父が農事組合法人の役員を務めており、米の大規模生産をしているため、今までも政策の影響はとて大きかったように思います。今後も政策の影響が小さくないことが予想されるので、先生から直接お話を聞くことができるのはとても価値が高いと思います。

# 授業紹介 社会力

農業経営者に求められる農業経営環境や諸制度を中心に学び、環境に適応し、かつ環境を創造しうる資質、能力、態度を育む。 [社会力:9単位]



フードシステム、食生活・食文化、食品産業の講義では、農業と深く結びついた食の現状を学びます。  
農村地域の活性化に関する講義は、講師も多彩で、学生の出身地域の話も多く聞くことができます。  
まさに今後農業、農村、食に携わる上で必ず直面する課題が中心です。  
講義を受け、自分はそれらとどのように向き合っていくのかを考えることができます。

学群	科目	主な講師陣	概要
社会力入門	フードシステム論 【1年次前期】	中嶋 康博 (東京大学大学院農学生命科学研究科教授) 中嶋 晋作 (明治大学農学部専任講師)	食と農とそれらを支える社会的枠組みの現状と課題をフードシステムの概念を通して学ぶ。食生活の変化、食をめぐる産業、社会的に必要とされる制度の実態と背景を社会科学的視点、特に経済学的視点に基づいて、理解して考察できる思考方法と専門知識を身に付けることを目的とする。
	食生活と食文化 【1年次後期】	武見 ゆかり (女子栄養大学栄養学部教授) 宇野 薫 (女子栄養大学大学院栄養学研究所)	地域で生活する人々の多様な「食の営み」を、環境要因も含め構造的に整理し、生活の質(Quality of Life)の向上につながるような望ましい食生活やライフスタイルについて理解するとともに、国際的にも評価が高い日本の伝統的な食事パターンや食文化についての理解を深めることを目的とする。
消費者・食生活・食文化	食品産業と農業 【2年次前期】	清水 みゆき (日本大学生物資源科学部教授)	食品産業と農業の関係を考えるベースとして、産業構造と日本経済における地位の両面から、食品産業とは何かを学ぶ。農地法改正を機に増加してきた食品企業の農業参入についても、狙いと参入後の様子を知り、農業改革の手がかりとする。最後に6次産業化や食農連携の講義を踏まえ、学生間の討論を通じて農業と食品産業の良い関係づくりの道を探る。
	消費者運動と食・農のパートナーシップ 【2年次前期】	宮崎 達郎 (公財)生協総合研究所研究員)	生産者と消費者は、市場における供給側と需要側という立場であるが、ソーシャルメディアの発達などにより、その関係はより近く、対等になっている。消費者とパートナーシップを形成し価値共創していくことが、生産者の経営や社会的貢献にとって重要になってきている。 本講義では消費者運動と農業の接点をめぐって、具体的な事例を挙げてケーススタディとディスカッションを行い、農業経営者が消費者の信頼を獲得し、消費者とのパートナーシップを構築していくために必要なことは何であるかを考える。

## 社会力入門 | フードシステム論



フードシステムの視点から、これからの食と農の課題を考えます。

〈担当講師〉  
中嶋 康博  
東京大学大学院農学生命科学研究科教授

農産物が生産された後、消費者に届くまでには、加工業、流通業、飲食店など実に多くの産業が関与しています。それぞれの経済活動や経済部門を総称してフードシステムと言います。それら産業が織りなす有機的関係を理解することなしに、現代の農と食を論ずることはできません。本講義では、フードシステムの視点から、食料消費の動向や食品産業の産業構造を読み解きながら、これからの食と農の課題を考えていきます。

## 社会力入門 | 農村地域の活性化



農村地域の活性化 | 農山村の再生戦略

〈第3期生〉東 将平 熊本県出身

フードシステム論を学ぶ中で、食料が消費者に届くまでの流れを詳しく知ることができました。それによって自分の中で自社商品のターゲットになりうる多くの市場を見つけることができました。また堅い話だけでなく最新の主婦のニーズや消費動向などの面白い話、新しいフードシステムの形やそれが与える農業への影響などの話もあり、自分の描く農業経営に活かしていきたいと感じました。

学群	科目	主な講師陣	概要
農村地域の活性化	農山村の再生戦略 【1年次前期・後期】	小田切 徳美(明治大学農学部教授) 荘林 幹太郎(学習院女子大学国際文化交流学部教授) 筒井 一伸(鳥取大学地域学部准教授) 橋口 卓也(明治大学農学部准教授) 関司 直也(法政大学現代福祉学部教授) 神代 英昭(宇都宮大学農学部准教授) 山浦 陽一(大分大学経済学部准教授)	この授業では、第1に、農山村の再生戦略にかかわり、マクロ的状況と従来までの政策の概況を講述する。第2に、多面的な農山村の再生の要素として、「農業」「生活」「資源・コミュニティ」の各論について論じる。そして、第3に、それらを総合化して、ヨーロッパの農山村再生の動きから学びながら、我が国における農山村の内発的発展の実践的方向性について学ぶ。
	協同組合論 【1年次後期】	阿高 あや (一社)JC総研副主任研究員) 石田 正昭 (龍谷大学農学部教授) 小山 良太 (福島大学経済経営学類教授) 松岡 公明 (農林漁業団体職員共済組合理事長)	協同組合を運動(association)と事業(enterprise)の矛盾の統合体として捉え、協同組合の基本原則を踏まえたうえで、今日の協同組合の実態と課題を学ぶ。第1に、協同組合は歴史的な存在形態であるから、成立から今日までを歴史的に整理する。第2に今日の農と食にかかわる協同組合として、生活協同組合(消費者購買生協)と農業協同組合(総合農協=JA)を対象として、その運動と事業の展開と仕組みを学ぶ。第3に、地域でみられる「新しい協同」の動きから、協同組合に求められる社会での役割を検討する。この授業では、協同組合論の専門的研究者をゲストスピーカーとして招へいし、具体的な講義を行う。
	集落営農とJA出資型農業法人 【2年次前期】	小林 元 (広島大学助教) ほか	集落営農を①「むら」(地域と地域資源)、②「農法」(技術の発展)から捉え、歴史的発展と今日的な実態から集落営農の特徴とその意義を理解することを目的とする。集落営農は地域の実態に合わせて多様な発展がみられることから、地帯構成区分に注目して、さまざまな事例とそのリーダーたちの声を実際に聴くことを重視する。単に集落営農を農業生産の組織化に矮小化することなく、地域づくりの視点から読み解くことで、受講者自身が将来地域のリーダーとして活躍することを期待し、その一助となることを目的とする。
	農村社会と女性 【2年次後期】	安倍 澄子 (前日本女子大学客員教授) 原 珠里 (東京農業大学国際食料情報学部教授)	農業経営をとりまく変化に適応し、また、その変革に向けて農山村女性が取り組む活動状況や問題、課題を理解するとともに、この女性活動が地域活性化に運動するための取り組み方や活用すべき諸制度を学び、地域社会の新たな動きを創り出す資質・能力を身に付けることを目的とする。
地方行政との連携・協働 【2年次後期】	大江 正章 (出版社コモンズ代表/ジャーナリスト) ほか	農業、地域づくりに関する市町村の首長や職員の先端的な政策や発想、地域への波及効果について、当事者およびそれらの詳細に詳しい講師から学ぶ。これまで進めてきた政策を具体的に紹介し、それらが生まれた背景、現状、達成点、今後の課題について講義していただく。あわせて、これからの農業の方向性、若い農業者に期待される役割を検討していく。	

## 農村地域の活性化 | 農山村の再生戦略



政策の背景事情や社会的な意義まで理解します。

〈担当講師〉  
小田切 徳美  
明治大学農学部教授

いま、農山村が動いています。人口減少、高齢化、農林地の荒廃という状況に抗して、立ち上がり、課題の解決に向けて、挑戦する地域が生まれています。本講義では、このような「農山村再生」に関する理論や実践事例、そのポイントをまとめ、講述します。学生の皆さんは、自分自身の将来の農業経営と地域再生とのあるべき関係を学んでいただきたいと思います。各地の挑戦を応援する研究者が、分野別に分担し、最新情報や海外情報も含めて論じます。

## 農村地域の活性化 | 農山村の現状と課題



農山村の現状と課題を、一つ一つ丁寧に学びました。

〈第3期生〉和田 和文 福岡県出身

小田切先生は自身の足を使って得た調査研究を元に、農山村の現状・課題を丁寧に解説してくださいました。全国的に成功しているといわれる地域が、いかに地域づくり・地域みかきを行っているのかを分析。農山村の再生を行う際に見えてくる課題を、一つ一つ掘り下げながら事例を学びました。地域のリーダーは、あせらず慎重に課題を解決していくことが大切であり、当事者意識づくり・地域再生のプロセス・政策の持続性をいかに確保できるかが重要だと教わりました。

# 授業紹介 人間力

農業経営者に求められる倫理観、哲学、使命感を学び、それらを 深化、統合、発展していく資質、能力、態度を育む。 [ 人間力:8.5単位 ]



リーダーとしての資質や、教養を身に付けます。講師との対話や各自の発表、ディスカッションを中心に講義が進み、一見すると難しそうな内容も、自ら考える時間があるため、いつの間にか講義に集中し、自然と理解できます。どの講義も、経営者・地域のリーダーとしての資質を育成し、農業経営者にとって必要なことは何かを考えさせられます。

学群	科目	主な講師陣	概要
人間力入門	経営者のための経済学 【1年次前期】	清水 徹明 ((株)農林中金総合研究所取締役基礎研究部長) 小野澤 康晴 ((株)農林中金総合研究所調査第一部長) 南 武志 ((株)農林中金総合研究所調査第二部副部長)	最初に、農業経営にとって一般経済の動向がどのように影響をもつのか、日本経済の歴史のなかで農業がどのような変化をたどってきたのかという観点から、農業経営と経済について大まかに概観する。そのうえで、経済学の考え方の基本を説明し、農業・農業経営が経済学の視点からどうとらえられるのかを解説する。後半は、主に日本経済を題材にして、新聞等で取り上げられる話題との関連性をもたせつつ、貿易の理論、貨幣と金融、財政について説明し、日本経済の課題について歴史的な経緯も踏まえて説明する。
	経営者のための社会学 【1年次前期】	原田 雄太郎 (日本農業経営大学専任講師)	社会の多様性や社会学の範囲について知り、経営者として社会学を学ぶ意義を確認する。社会が人と人との関係＝集団によって成り立っていることを踏まえて、現代社会の様々な関係性について考えていく。
	時代、世代、消費 【1年次後期】	三浦 展 (社会デザイン研究者、 (株)カルチャースタディーズ研究所代表取締役) ほか	経営者が理解しておくべき社会現象やその背景にある社会動向に関して、とくに人口、世代、消費の観点から学ぶ。まず日本の人口の変遷とそれに関わる今後の日本の課題等を把握し、そして戦後世代の特徴、戦後社会の歴史の概観を踏まえ、これからの消費社会のあり方を学ぶ。最後に「第四の消費」的なライフスタイル、食生活などについてゲストの話を聴く。
	経営者のための哲学 【1年次後期】	大平 浩二 (明治学院大学経済学部教授)	次世代農業経営者としてわが国の農業を担うために必要な判断力・思考力として日本を取り巻く諸環境の分析能力の基礎を身につけることを目的とする。講義では、世界の政治・経済状況の変化、経済や経営の基本を学んだ上で、第一線で活躍する各界の経営者の経営思想・経営哲学に触れつつ、自らの農業経営のあり方を考える。
	経営者のための英語力 【1年次後期】	黒川 恵子(会議通訳) ほか	農業経営に必要な情報がグローバルに行き来する現在、情報を直接読み解く技能が必要であり、実践的英語の基礎力を身に付ける。英語と日本語の発想・表現の違い、交渉の仕方の違いを知り、英語を自分なりに利用・応用する方法を学ぶ。
経営者のための心理学 【2年次前期】	野田 稔 (明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科教授) 浜田 正幸 (多摩大学経営情報学部・同大学院経営情報学研究科教授) 河合 太介 (経営コンサルタント、早稲田大学大学院商学研究科非常勤講師)	農業経営をおこなう上で知るべき心理学として、一般的組織マネジメントに必要な社員モチベーションや自己認知などの心理学の領域にフォーカスする。それと同時に地域にとけ込み農業という産業に従事する固有の事象に対する心理学である。本講義では、この二つの領域をバランスよく取り扱う。	

学群	科目	主な講師陣	概要
リーダーシップ	経営者としてのリーダーシップ 【1年次後期】	古山 和宏 ((公財)松下政経塾顧問)	リーダーとなるために必要となる普遍的な考え方や哲学を学ぶとともに、2年次の「事業計画書」作成に向けた基礎的な講座と位置づけ、授業では、学生同士の検討会、プレゼンテーションを経て、将来の「事業趣意書」を作成する。
	地域・農村のリーダーシップ 【2年次前期】	門間 敏幸 (東京農業大学名誉教授)	この授業では、リーダーシップの本質を整理するとともに、地域・農村におけるリーダーシップの特質と特異性を明らかにする。さらに、リーダーシップの源泉となる経営者としての資質や能力の特質を学ぶとともに、農業経営者の能力における総合力の重要性を整理する。
グローバル発想	日本農業史 【2年次前期】	堀口 健治 (日本農業経営大学専任講師) ほか	封建制を打ち破り資本主義が全面展開する背景に産業革命がある。蒸気機関から電機、内燃エンジンという技術史を学びながら、なぜ農業はこの流れ(労働手段的技術)にすぐに乗れなかったのか…労働対象技術の種苗改良等に力を注ぐのはなぜか、をまず考える。この農業技術論から、次いで有限な土地に規定される農業の発展史(寄生地主制の展開等)、世界的に家族経営が長く主流になる世界的傾向の背景等を理解した上で、日本農業の近現代史に入る。

学群	科目	主な講師陣	概要
特別活動	Hip hop ダンス 【1年次前期・後期】	麻生 陽介 (Hip hopダンサー)	体育的活動、文化的活動等を通じ、幅広い経験を積みながら、自主的な態度を育てるとともに、自己の在り方・生き方を考える能力を養う。
	ヨガ 【2年次前期・後期】	羽根 綾子 (ヨガインストラクター)	
	華道 【1年次前期・後期】	奥平 清祥 (石草流いけばな家元後継)	
	囲碁 【2年次前期・後期】	矢代 久美子 ((公財)日本棋院棋士(六段))	

## リーダーシップ | 経営者としてのリーダーシップ

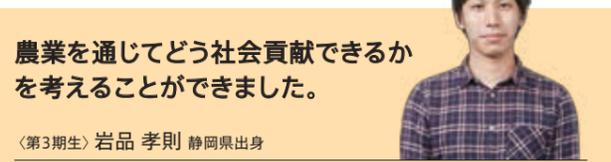


信頼や協力を得られる  
経営者としての資質を培います。

〈担当講師〉  
古山 和宏  
公益財団法人松下政経塾顧問

本講義では、経営理念や経営者に求められる条件を検討し、農業経営者のリーダーシップについて考察することによって、地域や農業経営に関係する人々から信頼、協力を得られる経営者としての資質を培うことを目的とします。2年次の「事業計画書」作成に向けた基礎的な講座と位置づけ、授業では、学生同士の検討会、プレゼンテーションを経て、将来の「事業趣意書」を作成します。

## 農業を通じてどう社会貢献できるか を考えることができました。



〈第3期生〉岩品 孝則 静岡県出身

経営の軸となる事業趣意書の作成を行うことで、農業が抱える現状や問題から、農業をすることでどのように社会へ貢献できるのか、その志の部分を考えることができました。私自身、農業をする上でその部分が曖昧だったので、とても有意義な時間になりました。他にも松下幸之助が残した経営やリーダーシップとは何たるかを学びました。今後経営をしていく中で、松下幸之助の経営信条を参考にしながら、オリジナルのものを確立していきたいです。

## 特別活動 | ヨガ



ヨガやインド式の語らいを通して、  
心と体を強くします。

〈担当講師〉  
羽根 綾子  
ヨガインストラクター

ヨガの行法や哲学を通して、まずは健康な心と体の土台をつくり、そして日々生活の中でどう自分や物事と向き合うかを考えていく授業です。インドに古くから伝わる健康法、呼吸法、ポーズ、お経、浄化法。そしてサットサンガ(インドで古くから行われている自分の意見や思いをディスカッションすること)を通じて毎週異なるテーマについて皆で話し合います。

## 自分の伸ばすべき点や改善点を 考えることができました。



〈第2期生〉森下 信義 富山県出身

心身ともに自分自身と向き合える授業でした。自分がやりやすいポーズや苦手なポーズを通じて、何を伸ばしていけば良いか、何を改善していけば良いかを考えることができました。就農すると自身と向き合う時間が減ると思うので、少しでも取り入れていけたらと思います。

# 特別講義

ここだから実現した、農業の可能性を広げる出会いがあります。

[ 特別講義: 6単位 ]



農業界、産業界、学界等、各界で活躍する多彩な講師を招へいし、様々なテーマで講義及びディスカッションを行います。  
(招へいする講師は年度毎に変わります。)

平成28年度実績

01	ニッポン農業生き残りのヒント <b>吉田 忠則</b> 日本経済新聞社 編集委員	09	家族・集落・女性の底力 ～T型集落点検から見えてくるもの～ <b>徳野 貞雄</b> 一般社団法人トクノスクール・農村研究所 理事長	17	わが国の食料・農業・農村を巡る状況について <b>小山内 司</b> 農林水産省大臣官房広報評価課情報分析室 室長 <b>大澤 誠</b> 農林水産省経営局 局長	25	世界の穀物情勢と商社の役割について <b>奥井 重行</b> 丸紅株式会社 穀物第二部 副部長
02	農業経営と経営の基本 <b>久保利 英明</b> 弁護士、日比谷パーク法律事務所 代表	10	1. 世なおしは食なおし 食べる通信の挑戦 2. 和をもって「会津で花ひらく漢方の里」を成す ～産地復活するには?～ <b>高橋 博之</b> NPO法人東北開墾 代表理事	18	顧客の「潜在ニーズ」を「カタチ」にするために <b>林 真嗣</b> 株式会社三越伊勢丹 食品統括部 食品第一商品部 生鮮バイヤー	26	広島県におけるイノベーション推進の取組 <b>湯崎 英彦</b> 広島県知事
03	生産者・2次・3次事業者の連携による農産物流通の構築 ～アグリゲート東北の活動について～ <b>宮川 博臣</b> 株式会社アグリゲート東北 代表取締役	11	<b>清水 琢</b> 清水薬草有限公司 専務取締役	19	農業法人の成長と資本の役割 <b>伊沢 豊</b> アグリビジネス投資育成株式会社 執行役	27	人材育成と農業経営の考え方 <b>近藤 正敏</b> 株式会社近藤農園 取締役
04	農業の労務管理と労働社会保険 <b>入来院 重宏</b> キリン社会保険労務士事務所 所長、特定社会保険労務士	12	ゲーム・チェンジャーの競争戦略 <b>内田 和成</b> 早稲田大学 大学院経営管理研究科 教授	20	小さくて強い農業で生き残る <b>久松 達央</b> 株式会社久松農園 代表取締役	28	労働生産性と品質を高めて高収益の農業を実現する為の技術と考えかた <b>蒲谷 直樹</b> フューチャーアグリ株式会社 代表取締役社長
05	わたしと地球がつながる食農共育 ～環境の視点で毎日の食を考える～ <b>近藤 恵津子</b> NPO法人コミュニティスクール・まちデザイン 理事長	13	寺田倉庫の取組とminikuraサービスについて <b>月森 正憲</b> 寺田倉庫株式会社 執行役員	21	日本の食文化の伝統と革新について ～食と農の未来～ <b>辻 芳樹</b> 学校法人辻料理学館 辻調理師専門学校 理事長・校長	29	理想の農業所得実現のための必須会計手法 <b>城口 権二</b> 百一姓 代表
06	持続可能なアグリビジネスの構築について No.1理論～脳をプラスにコントロールしアグリビジネスで実践する～ <b>橋本 康治</b> ヤンマーアグリイノベーション株式会社 代表取締役社長	14	売れる特産品づくりをめざす甘楽富岡地域の実践 ～人材(財)を創り産物を創り地域を創るJAのフルコーディネイト戦略～ <b>黒澤 賢治</b> NPO法人アグリネット 理事長	22	パタゴニアの考える企業の責任とは ～モノと人、環境の関係～ <b>辻井 隆行</b> パタゴニア日本支社 支社長	30	ビジネスとして魅力ある農産物の確立 ～ゼロからそして上場まで～ <b>及川 智正</b> 株式会社農業総合研究所 代表取締役社長
07	ロマンと算盤 <b>鈴木 豊</b> 株式会社山城経営研究所 代表取締役社長	15	農家のダイレクト・マーケティング戦略 直販・通販で売り上げを伸ばし続ける! ～お客様と直接つながる最強の農業経営～ <b>寺坂 祐一</b> 寺坂農園株式会社 代表取締役社長	23	ハードルを越える <b>為末 大</b> 元陸上競技選手、一般社団法人 アスリートソサエティ 代表理事	31	持続可能な社会にしていけるために必要なこと <b>新井 和宏</b> 鎌倉投信株式会社 取締役資産運用部長
08	遺伝子組み換え作物・食品の現状と問題点 <b>天笠 啓祐</b> ジャーナリスト、市民バイオテクノロジー情報室 代表	16	障がい福祉を通して見えた農業の今とこれから <b>内山 拓也</b> オーガニックステーションYOU合同会社 代表	24	農業と村の暮らし <b>内山 節</b> NPO法人森づくりフォーラム代表理事、哲学者	32	米沢郷牧場グループ 自然循環型農業の取組 <b>伊藤 幸蔵</b> 株式会社米沢郷牧場 代表取締役

※平成29年3月までの実績による ※肩書きは当時のもの

受講した  
学生のコメント

特別講義12 ▶ **内田 和成** 先生

これからビジネス、経営を行う上で大切なことをたくさん教えていただきました。特に変化はチャンスと捉えて、失敗を糧にしてこそ成長できるという言葉に励まされました。構造変化や消費者の心理的变化を押さえながら、ゲーム・チャレンジャーの4類型を参考に、新たなビジネス、イノベーションを起こしていきたいと思えます。ケース・スタディを含め、とても楽しく、学びを深められました。



特別講義12  
**内田 和成**  
先生

受講した  
学生のコメント

特別講義15 ▶ **寺坂 祐一** 先生

お客さんはメロンで幸せを買っているという話が特に印象的でした。私は小さい頃、シチューのCMを見て「なんかいいな」「美味しそうだな、食べたいな」などと思っていましたが、それは無意識に、シチューを食べれば幸せになれるような気がしたからだと分かりました。私も将来農業をする時に、お客さんにこれを食べれば幸せになれると思ってもらえるように売っていきたくて思いました。



特別講義  
10-11  
**高橋** 先生  
**清水** 先生

受講した  
学生のコメント

特別講義18 ▶ **林 真嗣** 先生

今回の講義では、どうすれば売上が向上するかを考えて発表しましたが、反省点だと思うのは、「本当に顧客目線で考えることができたのか?」ということ。特に伊勢丹はもう手をつける所がないと思込んでいたが、他の商品やサービスとの関連付けが売上のカギを握っていると聞いて、学ぶことがまだまだあると感じました。



特別講義21  
**辻 芳樹**  
先生

# ゼミ活動・専任講師紹介

学びのひとつの柱、ゼミ活動。2年かけて、じっくり経営計画を練り上げていきます。 [ゼミ活動:6単位]



## 本校のゼミ活動について

学生全員が入学してすぐに、4つあるゼミのいずれかに所属します。

文献の輪読、ディスカッション、各地での視察など少人数ならではの深い学びを通じて、それぞれの就農に向けてのビジョンを固めていきます。

卒業時に提出する経営計画も、ゼミの中で練り上げていきます。

### 松尾ゼミ



#### 経営戦略を実践していくため、 未来に必要なことを学ぶ。

経営戦略を実践していくための思考法や技法を獲得することを目指し、自律的な学びの支援、学びのコミュニティ形成を意識しています。具体的には、ロジカルシンキングやアイデア発想の技法等をベースに、マーケティング戦略の構築に取り組んでいます。また、異分野・異業種からの学びの機会こそ最も重要だと考えていますので、農業やビジネス分野だけでなくとどまらず、アートやテクノロジー、思想といったさまざまな領域に関する内容を、企業やミュージアムの訪問、輪読を通じて学んでいきます。

ゼミの中心的な活動として、学生のゼミでの成果をアウトプットする場を設けています。前期・後期それぞれ1回ずつ、外部のゲストに来てもらい、成果物と発表への評価をもらっています。ゲストからのフィードバックをもとに、内容をブラッシュアップしていきます。

こうしたゼミ活動を支えるのは、「半学半教」という考え方で、教える者と学ぶ者の分を定めず、相互に教え合い学び合うしくみのことです。学生の皆さんとは、「一緒に学ぶ」、「お互いに学び合える」関係を目指し、未来を創造する「知と方法」を構築していきたいと考えています。



専任講師  
**松尾 和典**  
まつお かずのり  
担当 **経営力**

[経歴] 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。慶應義塾大学SFC研究所 上席所員(訪問)を経て、コンサルティング・ファームに参画。消費財から公共領域に至るまで、多数の業界における成長戦略や新規事業戦略の策定に携わり、現在に至る。

### 小野ゼミ



#### 農産物の流通や消費、 食生活について力を入れて学ぶ。

小野ゼミでは、農産物の流通や消費、食生活について学ぶことに力を入れています。農業経営をおこなう上で、もっとも大事なものは農産物の生産です。しかし、作ったものから対価を得て経営を続けていくには、生産物が消費者や実需者のもとへ届き、「欲しい」「食べたい」「使いたい」としてもらうことが必要です。そのためには、自分が作ろうとしている農産物をどんな人が買っているか、どんなふうに調理され、食べられているかを知らなければなりません。

本ゼミでは毎年、子育て中の女性を対象とした食生活についてのインタビューをおこなっています。「お米の銘柄にはあまりこだわらない」「週末の食事は夫が担当」…自分が立てた仮説とは異なる食生活の実態に触れることで、新しい視点が獲得でき、事業のアイデアが膨らみます。

こうした消費者調査のほか、文献輪読や流通・消費の現場視察を通じて、農産物がどのように流通し、消費されているのか、その仕組みや実態について学び、それぞれの経営計画に生かします。卒業研究はもちろん、視察・調査の報告書やゼミだよりの発行を通じて、情報を整理する力、言葉で人に伝える力も養っていきます。



専任講師  
**小野 史**  
おの ふみ  
担当 **経営力** **人間力**

[経歴] 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程単位取得退学。(独)農研機構 中央農業総合研究センターにおいて、契約研究員として食料消費分野の研究に従事したのち、本校の専任講師となる。東京生まれ、宮城県育ち。

### 小口ゼミ



#### フィールドワークを中心に、 地域づくりの現場から学ぶ。

フィールドワークを中心に進め、それを補完するものとして文献輪読や映画鑑賞も行います。言うなれば“現場”と“理論”の往復作業です。

主なフィールドワーク先は、滋賀県東近江市、高知県四万十町、宮城県大崎市、鳥取県智頭町、長野県東御市、愛知県名古屋市などです。東京都日野市、多摩市、国立市など都市農業の現場は日帰りで訪ねています。そのほかにも、三重県津市では育土、栃木県上三川町では有機稲作の研修も実施しました。

その目的は、「地域で楽しく、しなやかに生きる人々の声に耳を傾けること」です。私たちはそこから何を学ぶことができるでしょうか。

- ①生きた知恵と工夫に触れ、卒業後の農業経営を考えるために必要な引き出しの数を増やすこと。
- ②卒業後も頼りにできるつながりを創ること。
- ③キーパーソンの語りから自分の考えや実践を表現するためのコトバを獲得すること。

「引き出し」「つながり」「コトバ」は、多ければ多いほど私たちの人生を豊かにしてくれます。これこそ、“オリジナリティ”が生まれる源泉です。この2年間、多様かつ刺激的な情報に触れながら、現場に出かけましょう。



専任講師  
**小口 広太**  
おぐち こうた  
担当 **農業力** **人間力**

[経歴] 長野県出身。明治大学大学院農学研究科博士課程単位取得退学。博士(農学)。明治学院大学国際学部卒業後、2007年3月から1年間、埼玉県小川町で有機農業の住み込み研修を実施。専門は地域社会学、有機農業研究。

### 原田ゼミ



#### 資本主義経済と再生可能エネルギーの 視点から、農村のあり方を考える。

本ゼミでの学びは、幅広い教養の獲得、物事を深掘りして本質を捉える力を磨くことに主眼をおいています。

具体的には、文献輪読を通して資本主義経済や市場に対する理解を深めます。自分の経営をどう構想するのかを考えるには、時代を捉える力が必要です。市場を中心とした経済の動きを読む力といってもいいでしょう。なぜなら生産から消費に至る過程は市場を通して行われるからです。資本主義経済や市場に対する理解は経営を考える上で重要な知識であり、経営者としての資産です。同時に近年多様化する資金調達についても学びます。また、農村地域における再生可能エネルギーの取り組みを視察します。農村地域はエネルギー資源の宝庫です。資源を生かし地域が自前でエネルギーを作り出せば、体力のある地域となります。そして市場を中心とした現在の経済が変化する可能性や環境問題解決の糸口となり得ます。

資本主義経済、市場への理解と農村地域における再生可能エネルギーについて学ぶことで、今後の農村のあり方をじっくりと考えます。そして、地域を背負う農業経営者を目指す学生には、日本の農業の将来やあり方にも想いを馳せて欲しいです。



専任講師  
**原田 雄太郎**  
はらだ ゆうたろう  
担当 **社会力** **人間力**

[経歴] 東京農業大学大学院生物産業学研究科博士課程修了(経営学)。修士課程修了後に産業廃棄物業界やラフティング(川下り)のガイドを経験した後、ガイドを続けながら博士課程へ戻る。専門はガイド経験を活かして環境問題、政治経済学。

# 農業実習・企業実習

実際に経験することで、ひと回り大きな自分に。



## 農業実習 [14単位]

- 1年次に4か月間実施。
- 先進的な農業経営体にて実施。
- 実習先では農業実習に加えて、経営者に同行したり、幹部ミーティング等への出席を通じ、経営者の仕事を学ぶとともに、当該経営体や地域のコア・コンピタンスを分析。
- 行き先は学生側の希望を基に、個別に調整。

### 農業実習 Report ①

〈第4期生〉  
今野 卓磨 宮城県出身



#### ● 実習先

有限会社鍋八農産(愛知県)  
有限会社横田農場(茨城県)

#### ● 実習目的

農業経営体におけるICTの活用方法や社員教育、農業技術を学ぶため。

#### ● 実習内容

水田の水管理や肥料散布、稲刈り、乾燥調整、客先への配達のほか、実習先の社長が登壇するセミナーに参加。また、稲刈り体験の主催者側として園児や学生とも交流しました。



#### 実習の成果

先進的農業を行う農家では、ITツールの導入前に作業効率化や情報共有、作業経歴の蓄積習慣を定着させ、その上で記憶の補助媒体としてITツールを活用していました。また、農業技術については草刈りから稲刈り機の運転、乾燥、精米までひと通りの作業を体験。草刈りの仕方ひとつで次の除草剤散布の効率が変ること、機械操作の手間ひとつで機械の寿命を左右することなど、多くの知識を得ることができました。

#### 学びを今後どう生かすか

卒業後は親元就農をしますが、現状の経営を維持するだけでなく、地域の農業者をまとめて地域モデルとなるような経営を行いたい。実習先とも良い関係を築けたので、悩んだ時は質問しながら解決していきたいと思っています。

### 農業実習 Report ②

〈第4期生〉  
谷口 光里 京都府出身



#### ● 実習先

関塚農場(栃木県)

#### ● 実習目的

宅配やネット販売、害獣対策、中山間地での環境的・経済的に持続可能な農業について学ぶため。

#### ● 実習内容

野菜の定植・管理・収穫・出荷調整や、鶏の給餌・集卵作業、農場での料理教室や稲刈りイベント、マルシェでの接客のほか、地域おこしの取り組みに参加して住民との交流を深めました。



#### 実習の成果

獣害対策では、エサとなる放棄果樹や竹林を整備し、獣害を寄せ付けない環境をつくること、地域住民が獣害への正しい知識をもつことが大切だと学びました。また、実習先では低価格のクラウドサービスを活用して直接販売の事務作業を効率化しており、自家の経営でも生かしたいと思いました。経営者の方の、常に探求心と向上心をもって楽しい農業を実践する姿、人の弱みでなく強みを大切にすることは、私も大切にしていきたいと思っています。

#### 学びを今後どう生かすか

卒業後は、農業を土台に教育や地域活性化に取り組んでいきたいです。実習で改めて、農業が地域や人との密接なつながりの上に成り立っていると気づかされました。今後はより一層、つながりを大切にしていきたいと思っています。

## 企業実習 [10単位]

- 2年次に3か月間実施。
- 農業以外の企業にて実施。(例) 流通加工業、広告代理店、地域づくり団体、コンサルティング、生協など
- 講義で学ぶ経営やマーケティング等を企業の現場実習を通じて学ぶことを目的とする。企業での実習を通じて農業の新たな価値・可能性と課題を発見し、卒業後の農業経営に向けて、自らのあり方を見極める。
- 行き先は学生側の希望を基に、AFJの会員企業を含む様々な企業・団体などで個別に調整。

### 企業実習 Report ①

〈第3期生〉  
加藤 瞳 新潟県出身



#### ● 実習先

市岡製菓株式会社(徳島県)

#### ● 実習目的

地域活性化の方法および地域の魅力の発信方法を学ぶため。

#### ● 実習内容

工場併設のお菓子販売店での接客のほか、原料の収穫・加工・箱詰めや、自分で企画した商品の販売まで体験しました。



#### 実習の成果

店舗実習では、どんなお客様がどの商品を購入するかを観察したり、ディスプレイや接客の工夫について学ぶことができました。また商品企画では、メインの客層である50代女性観光客が、友人へのお土産にしたい商品を考えて。高級感のある小さめの箱に、5種類のお菓子を詰め合わせました。結果は予想以上に好評。何が良く何が間違っていたかを身をもって知る、貴重な経験になりました。

#### 学びを今後どう生かすか

慈善活動でなく、ビジネスとして地域を活性化していきたい。そんな私には、実習先のように、地域の農産物を利用した商品をお客に届ける方法が向いていると感じました。学んだ仕組みを、私の就農地でも取り入れていこうと思っています。

### 企業実習 Report ②

〈第3期生〉  
小口 晋介 山形県出身



#### ● 実習先

株式会社ジョージクリエイティブカンパニー(東京都)  
株式会社アグリゲート東北(山形県)

#### ● 実習目的

イベント企画や商品開発を通して、農産物に新しい価値を見出すため。

#### ● 実習内容

デザイン会社では体験ツアーの企画や駅前の改装に伴う新しい駅利用の提案、農産物流通会社では農産物の発送業務や商品規格設定、東京での営業同行を体験しました。



#### 実習の成果

2社での実習は、農業生産とは違う新たな視点をもたらしてくれました。2社の共通点は、人とのつながりを大切にしていること。デザイン会社の社長はSNSやメルマガ、また実際に会うことでつながりを維持していました。農産物流通会社の社長は、すぐに相手と打ち解けて笑いのたえない商談にできる人でした。人とのつながりは大きいほど維持するのが難しくなります。でもその分、大きな仕事や面白い仕事ができると感じました。

#### 学びを今後どう生かすか

農業という仕事を、生産・デザイン・流通の3つの視点で幅広く見ていこうと思います。農業者の当たり前を当たり前と思わないことから始めて、自分ひとりだけでなく多くの人がかかわる農業をつくってきたいです。

# 学校生活・寮生活

学校や寮での毎日をご紹介します。



## 1日の過ごし方

平日の生活の中心は学校での授業です。  
休みの日は寮で過ごしたり、外出したり  
思い思いに過ごしています。



〈第3期生〉星 裕之 東京都出身

平日は5時に起床。6時15分からみんなで寮の掃除をします。自転車通学と夕食前の10kmランニングのおかげで、ハーフマラソンも完走しました!夕食後は勉強や、みんなでお酒を飲むことも。22~23時ごろ就寝します。土日は学校の課題に取り組んだり、農業セミナーに参加。農業簿記、農業技術検定、ジュニア野菜ソムリエ、土壤医検定など資格の勉強にも励んでいます。



〈第3期生〉島田 大輔 埼玉県出身

毎朝8時半ごろ登校し、空き時間は図書室で過ごします。図書室は落ち着くし、あらゆるジャンルの本がそろっているので、課題をやるには最適。職員の方のおしゃべりも楽しみのひとつです。昼食は教室もしくはゼミ室で、仲間とワイワイ食べます。お気に入りには仕出し弁当。おかずの種類が多くて、学校に配達してくれるので便利です。



1週間の授業スケジュール ※1年生・2015年6月の例

	1時限目 9:00-10:15	2時限目 10:30-11:45	3時限目 13:00-14:15	4時限目 14:30-15:45	5時限目 16:00-17:15	6時限目 17:30-18:45
月	農業・食の経営戦略	特別講義				
火	消費者の心理と行動	経営者のための社会学				
水	総合的学習	経営者のための社会学				
木	学年別ゼミ	経営者のための経済学	文化的活動 華道			
金	特別講義	AFJ 事業概要	農業経営と 情報マネジメント			

## 2年間の行事

授業、実習のほかに、さまざまな  
学びと体験の機会を用意しています。



● 会員企業  
交流会



● 入学式



● 学校行事  
(食品メーカーの工場視察)



● 学校行事(歌舞伎鑑賞)



● 学校行事(富士登山)



● 先進農業経営体等  
視察研修



● 卒業研究発表会



● 卒業式



## 寮生活

全寮制の本校では、2年間、学生みんなで寮生活をします。  
真剣に議論したり、夢を語り合ったり。  
ここでしかできない経験と、家族のような仲間が待っています。

### 食堂



食堂は学生全員の共用スペースです。  
夜遅くまでコミュニケーションの場と  
なっています。

夕食後にみんなでテレビを観たり、日々の何気ないことや学校のことを話す時間が好きです。食事  
もすごく美味しくて、朝晩食べられるので、便利で  
経済的。面倒見の良い寮母さんが作る手ごね  
ハンバーグは絶品です!

〈第3期生〉  
鳥海 みな子 神奈川県出身

### 談話室



男女共用と女子専用の談話室があります。  
調理設備と冷蔵庫を完備。  
弁当を作って学校に持って行くこともできます。

### 食事



朝食と夕食を提供し、  
食事面をサポート。  
栄養バランスに  
配慮した国産の食材を  
使用しています。



〈第1期生〉野上 真  
新潟県南魚沼市で就職

### 寮に食材を納入する卒業生を紹介!

「少量でも確実な売り先」これを確保することは、ゼロから生産することへの安心感につながります。そこで学生寮への納入を決めました。また、自分が作ったものを食べてもらうことで、在校生とのつながりを深めることもできますし、卒業生の本気度みたいなものを感じ取ってもらえたら嬉しいです。今後は学生寮だけでなく、外部にも販路を広げていきたいと考えています。全国にいる卒業生の生産者団体がまとまれば、大きな販売力になるはず。まだ団体は二期目ですが、卒業生も年々増えますので、続けていくことを目標に頑張ります。

授業でグループ発表がある時は、談話室に集まって資料作り  
をします。みんなで夕食を作ったり、お酒を飲みながらおしゃ  
べりすることも。私が寮の食事で好きなのはカレー。こだわり  
と工夫が詰まった本格的な味わいです。

〈第3期生〉加藤 瞳 新潟県出身

楽しいサークル活動もあります!  
(学生の自主企画)



### [今年度予定しているサークル活動]

マルシェサークル  
マルシェでの農産物販売



マルシェサークル打ち合わせ

### スポーツサークル

日々のマラソンやフットサルを実施

### プランターサークル

屋上でプランター栽培

作目は参加者の希望で決定

### [地域貢献活動]

町内会の清掃に参加

# 施設の紹介

学校も寮も、きれいで設備が整っていて、快適に過ごせます。



## 校舎

(農林中央金庫品川研修センター5階)

校舎は2014年2月に完成。

品川駅から徒歩12分で、都内の移動も便利です。



## 学生寮

川崎市中原区にある学生寮。

最寄り駅は「武蔵中原」駅で、学校まで約50分で行けます。

ようこそ!  
日本農業経営大学校  
学生寮へ



### ① 教室

明るく落ち着いた雰囲気、最新式の設備機器を導入。1学年20名が勉強に打ち込めます。2教室をつなげると、全学生と一緒に学べる大教室に。

### ② 図書スペース

調べ物に大活躍。経営や農業に関する3千冊以上の本が所蔵されています。

### ③ ラウンジスペース

学生たちが自由に使えるスペース。休み時間や昼食時に休憩もできます。また、学生共用のパソコンやコピー機、学生一人ひとりに専用のロッカーも用意。ロッカーの中には、ノートパソコンや携帯電話を充電できるコンセントも付いています。

### ④ ゼミ室

ゼミや卒業研究を行う専用の部屋。学生の疑問や生活面の不安に対しても、担当教員がサポートします。

### ⑤ テラス

オープンエアでゆっくりと休憩できます。眺めも抜群で、晴れた日の気持ちよさは格別です。

### 無線LAN環境

本校専用の無線LANを完備。個人のノートパソコン等からインターネットに接続できます。



### ① 個室 (4階は女性専用フロア)

個室には机やベッド、エアコン、収納が完備され、学習環境をサポートしています。

#### [居室設備]

机、椅子、本棚、ベッド、収納スペース、エアコン、カーテン、電気スタンド、ゴミ箱、ペラダ(物干し台)

### サポート

管理人が24時間常駐しているので安心。生活の様々な面で献身的にサポートをしてくれます。



### 共用施設

- ② 食堂
- ③ 談話室 (調理設備あり)
- ④ 風呂 (男性用1階大浴場、女性用1階・4階浴室)  
一日の疲れを癒す広々とした大きなお風呂は、学生にも人気。思いっきり足を伸ばせます。
- ⑤ 洗濯機、洗面所  
洗濯機と洗面所を各階に完備。衣類乾燥機もついていて便利です。
- その他共用設備  
下駄箱、郵便受

# 卒業生・進路紹介

卒業生たちがつながり、切磋琢磨しながら、日本中に新しい農業を生み出していく。



## 卒業生紹介①

〈第2期生〉森下 信義 富山県入善町で就農 農家出身 → 親元での独立就農



### 入学動機

私は有限会社グリーン森下の4代目として、歴史ある特産品の「入善ジャンボ西瓜」をもっと広めていきたいと思い、日本農業経営大学校へ入学しました。同校では農業以外の視点から農業を見ることを重視しており、たとえば広報伝業界のプロがマーケティングや販売戦略を農業に当てはめて講義を行うなど、東京だからこそ学べる内容がたくさんありました。

### 卒業後1年間の取り組み

現在は従業員4名とアルバイト2名で、水稲40ha、大豆30ha、入善ジャンボ西瓜70a、ハウスネギ10a、そして新たに100本近くのモモを栽培しています。就農1年目、私は米づくりと西瓜づくりの基本をひと通りすべて体験。JA青年部にも加入し、農業撒布ヘリ組合のメンバーとなって青年農業者仲間とも交流しています。

入善ジャンボ西瓜は西瓜本来の味を大切にするため、接ぎ木なしの自根栽培

培で手間がかかり、病害虫防除などの管理も重要。ジャンボ西瓜の栽培を専門に担う母から1つひとつ作業の説明を受けましたが、暗黙知の部分もあるため簡単にわかるものではなく、日々少しずつ学んでいくしかないと思っています。

### 今後の展望

地域に30人ほどいた西瓜の栽培者も、今では十数人に。これまでの歴史を土台にしつつ、私の代でも新しいネットワークを作って販売を広げていきたいです。最近子どもたちが集まるイベントなどでも積極的に入善ジャンボ西瓜をPRしています。

入善町は農業後継者も多く、法人化した家族経営が地域農業を引っ張っています。米と田んぼ、景観を守っているという誇りを持ち、地域の農業者とのつながりを大事にしながら、農業を持続・発展させていくことが重要だと思います。持ち前の行動力を生かして、全国の仲間と交流を重ねたいです。そしていつか自分なりに新しい経営を提案できるよう模索していきます。

## 卒業生紹介②

〈第1期生〉中瀬 健二

熊本県菊池郡大津町で就農

農家出身 → 親元での独立就農

両親・兄と作っているサツマイモは、貯蔵庫で保存することで甘くなるのが特長です。熊本地震で貯蔵庫が半壊してしまいましたが、より大きくて冷暖房付きの貯蔵庫に建て直すことに。目標だった生産量拡大による通年出荷も実現できる見込みです。現在、企業実習先の流通会社が出荷先の柱の一つ。新技術の情報収集でもお世話になっています。私は生産担当として、すべての畑の作業をきちんと管理できるよう栽培スケジュールを立てマニュアルを作成し、規模拡大しても作業がスムーズに進むようにするのが今の課題です。



## 卒業生紹介③

〈第1期生〉鎌田 頼一

兵庫県豊岡市で就農

非農家出身 → 独立就農

在学中から農地を探し、1haの畑で野菜の生産を始めました。2年目の昨年は2.5haに拡大し、父と2人でハウレンソウ、ニンニク、タマネギ、キュウリ、オクラ、トウモロコシなどを作っています。在学中に知り合った出荷グループを経由したり、自ら販路を開拓して販売していますが、私の野菜は甘くておいしいと言ってもらっています。新規参入なので大変ですが、海外での市場調査やセミナーにも積極的に参加しながら、新技術の導入や科学的根拠を大事にした栽培を行い、商品力を高めていきたいと考えています。



## 卒業生紹介④

〈第1期生〉山貫 伸一郎

北海道恵庭市で就農

非農家出身 → 雇用就農

イオンアグリ創造株式会社が運営する北海道の研究農場で、スイートコーンやトウモロコシ、ブロッコリー、パレイショなどを栽培しています。パレイショは雨続きで収穫できない場所も出るなど、なかなかうまくいかず、土壌特性に合わせて作物を選ぶ必要があると実感しました。将来は自分で農業経営をするのが目標。会社も独立を支援してくれるので、ここで現場経験を積み、人間的にももっと成長したいです。そして自分の経営だけでなく、「あの人のところに行けば大丈夫」と思われるような地域リーダーになれたらと思います。



## 想定される主なキャリアパス

農家出身者	自家農業を引き継ぐ
	自家農業を共同経営する
	親から独立して別の経営を開始する
非農家出身者	農業法人に就職、修行後に自家農業を引き継ぐ又は独立する
	独自に農地を確保して独立する
	農業法人に就職 一定期間の修行後に独立する 就職先の経営層を目指す

### 〔就農先について〕

本校では学生自身がやりたい農業を見つけ、自発的に就農先を考えて行動するように指導・サポートしています。

## 卒業後の就農状況と就農地

### 〔就農状況〕

就農先	卒業生合計(45名)	うち農家子弟(28名)	うち非農家(17名)
親元就農	23名	21名	2名
雇用就農	16名	6名	10名
独立就農	3名	0名	3名
継続研修	3名	1名	2名

注: 親元には祖父母及び親戚を含む

### 〔就農地〕



## 卒業生の雇用就農先(一部)

- ・イオンアグリ創造株式会社 北海道恵庭農場
- ・いわきおてんとSUN企業組合
- ・麒麟山酒造株式会社
- ・有限会社信州うえだファーム
- ・株式会社ハート&ベリー
- ・有限会社農業生産法人かめま
- ・蟻塚農園
- ・やおやかなもり
- ・薬種開発株式会社 農事部 鳩山農場
- ・イノチオ農芸株式会社
- ・株式会社日本情報化農業研究所
- ・株式会社東部コントラクター (鳥取県畜産農業協同組合のグループ会社)
- ・合同会社ワタナベファーム

※継続研修者が研修後に就農する予定の地域も含む

# 各種支援について

入学前、在学中、卒業後、農業経営者としての力をさらに高める支援を行います。



## 入学前・在学中の支援

### 放送大学受講の支援

本校入学前及び在学中に、放送大学を受講する場合の授業料等について支援を行っています。

#### 経緯とねらい

本校は社会人経験者、農業法人・自家等での農業従事者、大学生、県農業大学校生、高校生など、年齢も経歴も様々な青年が受験します。このうち高校生については入学前の農業研修期間中に放送大学の一部科目の受講を推奨して、「知識・教養」の積み上げを図ることとしました。これは、

- 1 本校では開講していない一般教養科目を学ぶ
- 2 1年間の農業研修期間中も継続して勉強する習慣を身に付ける
- 3 本校で学ぶ高卒者にも学位が取得できるきっかけを与える(放送大学に在学する中で必要な単位を取得すれば、学位を取得できます)

ことなどをねらいとして推奨するものです。

#### 放送大学の受講

本校が推奨する5科目を登録して放送大学に入学し、インターネット環境があるところで、夜間、週2日、1時間程度の学習を想定しています(インターネット環境があれば、いつでも何度でも視聴できます)。(参考)平成29年度の推奨科目 「哲学への誘い」、「はじめての気象学」、「日本の近現代」、「社会学入門」、「事例から学ぶ日本国憲法」

#### 経費の支援

選科履修生入学料(9,000円)と授業料(1科目当たり11,000円)は、単位取得又は単位認定試験の受験要件を満たしている等判断できれば、本校入学後に上記費用を支給します。

#### その他

高校生の入学前の放送大学受講は、あくまでも推奨です。本校在学中に放送大学受講を希望する学生については、同様の支援を行います。



## 卒業後の支援

### 海外農業研修支援

本校卒業後に、公益財団法人国際農業者交流協会(国農協)の海外農業研修制度を利用して、これまでに2名の卒業生が海外での研修を行いました(平成28年度:オランダ1名、フランス1名)。

#### 支援の概要

- 1 国農協による海外農業研修への参加を希望する学生を2名まで校長名で推薦  
推薦応募のメリット:選考費の減免、筆記試験の免除
- 2 推薦者に対する研修準備特別プログラムの実施  
プログラム内容:語学プログラムの設定・提供/語学研修経費の補助/研修希望国の農業事情についてのレポート作成指導/語学検定受験料補助
- 3 推薦者に対するTOEFLiBTスコアに応じた研修費の助成  
スコアと助成内容:TOEFLiBTスコアに応じて研修費の助成を行います。助成の内容はスコア別に数段階に分かれ、最大で全額の助成を行います。

#### 公益財団法人 国際農業者交流協会の 海外農業研修制度とは

農業技術・知識の習得、国際感覚・コミュニケーション能力の獲得による優れた農業経営者の育成を目的として、海外の優れた農業経営者のもとで研修を行う制度。研修先はアメリカ(19か月)、ヨーロッパ(デンマーク、ドイツ、スイス、オランダ:13か月)の農場。実習中は農場から実習手当が支給されるが、参加申込金30万円、国により研修費69万円から134万円程度が必要となる。年齢制限あり。参加年、研修先国によって内容が異なるため、詳細は学校あるいは国際農業者交流協会にお問い合わせください。

#### 海外農業研修制度を利用した学生のコメント(研修先:オランダ)

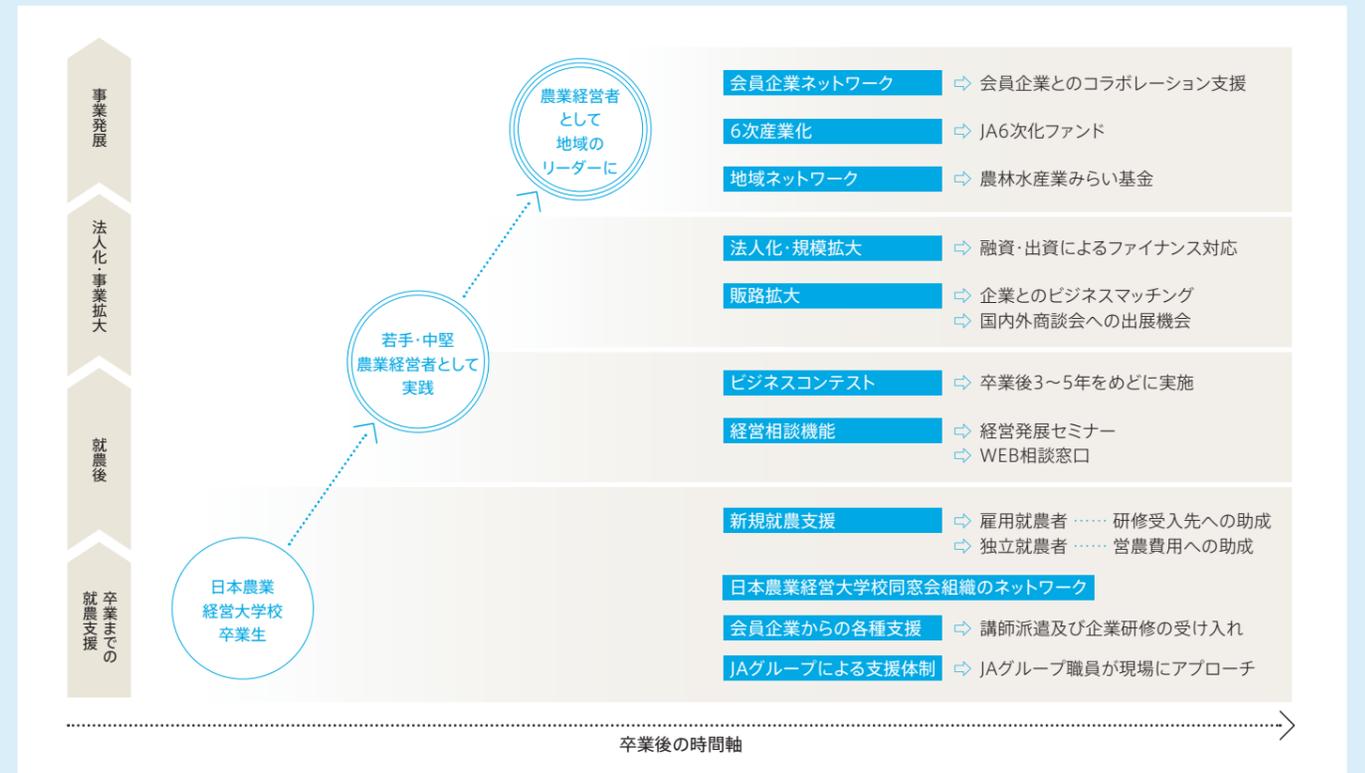
〈第2期生〉井上 隆太郎 長野県出身

私はイチゴ・アスパラ・サクランボを生産するオランダの農業法人で、イチゴの収穫や、テスト品種の糖度や重さを調査する仕事をしました。志望理由は、以前からすごいと聞いていたオランダ農業を、この目で見たいと思ったから。大規模でイチゴの露地栽培をする一方、生産性にシビアで、作業時間を指定されるなど日本とは違う農業を体感できました。最初はポーランド語を覚えるのに苦労しましたが、今ではポーランド人労働者ともスムーズに会話できます。また、経営について

説明を受ける時は、日本農業経営大学校で経営を学んだおかげで理解が深まったと思います。生活面では寮や食事も提供してもらい、休日は地域の野球チームで試合を楽しめました。この研修制度を利用して、ビザの申請代行や、自分の希望に合う研修先を探していただけたのはありがたかったです。研修は3月で終わりですが、あと半年、現地の別の法人で研修を受けようと思います。帰国後は農業法人に就職し、地元・長野県佐久市の活性化を目指しながら自らの展望を考えていきたいです。

### ステージに応じた各種支援

卒業生の経営発展をサポートすべく、会員企業と連携したうえで、様々な支援策を検討しています。会員企業との連携施策として、例えば、農林中央金庫とともに卒業生の成長ステージに合わせた、各段階ごとの支援策を検討しています。



# 募集・受験について

平成30年4月に入学する20名 と平成31年4月に入学する5名の学生を同時に募集します。



## 一般入試

**募集対象者** 本校卒業後、独立就農、自家を含めた農業経営体で就農又は雇用就農し、農業に従事することが確実と見込まれる者で、未来を切り拓く農業経営を志す者

- 受験資格**
- 【30年度入学生】高等学校を卒業した者又はこれに準ずると認められる者
  - 【31年度入学生】高等学校を卒業した者、平成30年3月卒業見込みの者又はこれに準ずると認められる者
  - 入学する年の4月1日時点で19歳以上40歳以下の者
  - 入学までには原則3か月以上の農業従事・農業研修経験が必要(受験時に満たしている必要はありません)

※高等学校卒業見込み者は、上記にかかわらず1年程度  
 ※道府県農業大学校等の卒業生又は卒業見込み者は、農業研修経験を満たしています。  
 ※大学農学部の実習は、農業研修経験とみなし実日数で換算します。  
 ※農業研修は、作物の栽培、家畜の飼養等に関する内容が基本となります。

**放送大学受講** 高等学校卒業見込で受験し合格した者については、本校に入学する前の段階で一般教養等の知識や教養を高めることを支援するため、本校が指定する放送大学の授業科目をできるだけ履修していただきます。放送大学の受講は本校として推奨するものですが、必須ではありません。

**募集人数** 平成30年度入学試験 20名(特待生入試含む)  
 平成31年度入学試験 5名(定員20名のうち、平成29年度に実施する試験で5名募集します。)

**入学試験日程**

入学試験日程	試験会場	出願期限	入学試験	合格発表
I 期日程	東京	7月6日(木)	7月23日(日)	8月7日(月)
	岩手・福岡		7月29日(土)	
III 期日程	大阪	10月5日(木)	10月21日(土)	10月30日(月)
	福岡		10月22日(日)	
IV 期日程	東京	11月9日(木)	11月26日(日)	12月4日(月)
V 期日程	東京	平成30年1月25日(木)	平成30年2月10日(土)	平成30年2月19日(月)

※入学志願票は、6月1日(木)から受け付けます。 ※出願期限が必着です。

**試験の種類** 小論文審査(出願時の小論文を審査)、筆記試験(知的能力診断テスト、性格検査)、面接

**受験費用** 5,000円

### 本校2年間で必要な主な費用

入学金	なし
授業料	60万円/年 120万円<2年間>
寮費(朝・夕食あり)	100万円/年 200万円<2年間>
実習費用	選択する実習先により変動
合計	約320万円<2年間>

※その他:交通費・昼食代などが発生します。

### 助成金

農業次世代人材投資事業 (旧青年就農給付金(準備型)) 150万円/年 300万円<2年間>

注:①日本農業経営大学校は、全国型教育機関として認定されています。  
 ②給付金の給付を希望する者は、給付金の事業実施主体に研修計画を提出し、承認を得る必要があります。  
 ③給付金を受けた場合は、本校卒業後一定期間独立・自営就農又は雇用就農しないと給付金を返還しなければなりません。  
 ④農業次世代人材投資事業(旧青年就農給付金(準備型))については、要綱等を十分ご確認ください。

### オープンキャンパス日程(本校)

- 第1回 6月17日(土) 第3回 10月14日(土)
- 第2回 8月26日(土) 第4回 1月13日(土)

### 学校説明会(岩手・大阪・福岡)日程

- 第1回 6月10日(土) 岩手/福岡 第3回 8月6日(日) 福岡 第5回 10月22日(日) 福岡
- 第2回 8月5日(土) 大阪 第4回 10月21日(土) 大阪

## 特待生入試

**募集対象者** 農業法人代表者・役員の子弟及び幹部候補者、認定農業者の子弟、県農業大学校等卒業見込み者で成績優秀な者  
 ※子弟は、農業法人代表者・役員又は認定農業者から二親等以内とします。

- 受験資格**
- 高等学校を卒業した者又はこれに準ずると認められる者
  - 入学する年の4月1日時点で20歳以上40歳以下の者
  - 入学までに原則3か月以上の農業従事・農業研修経験が必要

**募集人数** 6名

**入学試験日程**

II 期日程	試験会場	出願期限	入学試験	合格発表
	東京	9月7日(木)	9月23日(土)	10月2日(月)

**試験の種類** 小論文審査(出願時の小論文を審査)、筆記試験(知的能力診断テスト、性格検査、小論文)及び面接

**奨学措置** 特待生については、1人当たり年間160万円(授業料、寮費相当額)の奨学金を支給

- 給付停止措置**
- 在学中の学業成績、学生生活に問題が生じた場合
  - 在学時に農業次世代人材投資事業(旧青年就農給付金(準備型))を利用する場合
  - その他、本校が別に定める規程類に抵触した場合

- 返還措置**
- 原則として2年以内に本校を卒業しなかった場合
  - 本校卒業後、3か月以内に就農しないことが確実になった場合
  - 就農後、3年間就農を継続しないことが確実になった場合
  - その他、本校が別に定める規程類に抵触した場合 ※返還措置を設けるため、入学に当たっては連帯保証人が必要

**その他** 特待生入学試験で不合格になった者であっても一般入学試験の合格水準に達していると認められる者については、一般入学試験の合格者として入学することが可能です。

## 農業経営者入試

**募集対象者** 既に自家又は農業法人の農業経営の主体を担っている者

- 受験資格**
- 高等学校を卒業した者又はこれに準ずると認められる者
  - 入学する年の4月1日時点で40歳以下の者

**募集人数** 2名(日本農業経営大学校の入学定員20名の外数として募集します)

**入学年度** 農業経営者入学試験合格後、3年以内に入学することとし、入学年度は受験者が決定します。

**入学試験日程**

試験会場	出願期限	入学試験	合格発表
東京	11月9日(木)	11月26日(日)	12月4日(月)

**試験の種類** 小論文審査(出願時の小論文を審査)、筆記試験(知的能力診断テスト、性格検査)、面接

- AO入試の特例**
- 自らが主体となっている農業経営から離れることを考慮し、より実践的な教育が受けられるよう、教育プログラムについては個人ごとに対応します。
  - 授業料(年額60万円)は免除します。自らの代替を確保するために経営的損失が生じること及び一般学生に対して大きな刺激を与える教育効果があることを考慮します。

